

つながる にほんご

～ かながわで とともに くらす ～

別冊 活動ガイド





はじめに

この『つながる にほんご ～かながわで とともに くらす～ 別冊 活動ガイド』は『つながる にほんご ～かながわで とともに くらす～』（以下、『つながる にほんご』）を、さまざまな地域で日本語ボランティアをなさっている皆さんの活動に役立てていただくための手引きです。本冊の『つながる にほんご』を初めて手にとられた方、あるいはもうお使いになって、もっとうちの教室にあった使い方ができないかな、とお感じの方には、ぜひお読みいただきたいと思います。

ここでは、日本語ボランティアの方が実際の活動にいたるまでを、Ⅰ. 活動を考える前に、Ⅱ. 活動を考える、Ⅲ. 活動のコツ、Ⅳ. 活動案／実践例とし、それぞれの章で必要な考え方やちょっとしたスキルを掲載しました。Ⅳ章には、『つながる にほんご』本冊にある5つのテーマから、9つの話題を取り上げ、実際の活動案や実践例が載せてあります。

同じ地域で活動していても、ボランティア、学習者それぞれの属性、活動形態は多様ですから、「こうしてやればOKです」と一つの形を提示することは、おそらく誰にもできません。学習の場は、ボランティアと学習者の双方の力で作り上げるものです。そこに教室のおかれた地域の個性が反映されて、その地域につながり、さらには社会参加につながる窓口になれば、素晴らしいことです。この活動ガイドが、そのためのきっかけ作りやヒントになれば、幸いです。

2014年3月

神奈川県立国際言語文化アカデミア

◆この冊子での用語について◆

日本国籍を持っていない人を指す場合は、「**外国人**」の呼称を使用しました。日本語教室で学ぼうとする人は、国籍を問わず「**学習者**」としました。自分の日本語を提供する側で活動する人も同様に、国籍を問わず「**ボランティア**」と呼んでいます。実際の現場では支援者、進行役、教師、共同学習者等、いろいろな呼称が用いられていますが、これから参加したいという方への分りやすさから「ボランティア」を選びました。なお、「ボランティア」は必ずしも無償の活動者ではありません。

もくじ

はじめに.....	1
I. 活動を考える前に	
1. 地域に暮らす外国人	5
2. 教室を知る	7
3. 互いに知り合う	9
4. ボランティアの私自身を振り返る	13
コラム「共生を学ぶ場としての日本語教室」	
コラム「心がとけちゃった」	
II. 活動を考える	
1. 活動の種類とバランス	16
2. 教材『つながる にほんご』を使った活動	
(1) 教材『つながる にほんご』とは	18
(2) 活動案を立てる	20
コラム「私は何？—自己紹介の落とし穴」	
III. 活動のコツ	
1. 地域の特性	23
2. 対話のヒント	
(1) ひらいた質問／とじた質問	24
(2) 小刻み質問	27
(3) 学習者が答えに困っているとき	30
3. 話題のヒント	
(1) 話題の見つけかた	32
(2) 話題の広げかた	35
(3) 話題の深めかた	38
コラム「ボランティアも“わたし”らしく」	
4. 文法の扱い	41
コラム「人間として、レベルアップできる日本語」	

IV. 活動案／実践例	
1. 活動案とは.....	45
2. 地域での活動例	
(1) はじめてのインタビュー活動「ふるさとは〇×です」	48
(2) 地域と親しむ「街角オリエンテーリング」	52
(3) 「お出かけ計画」学習者主導の活動へつなげる	57
(4) 「健康」テーマを積み重ねたシニアのための日本語活動.....	58
(5) 「民間療法」異文化の知恵を学ぶ	67
コラム「“先生”ですか、それとも・・・」	
(6) 「どんな子ども」活動案通りでなくても収穫を	70
(7) 「小学生のころ」教室丸ごとで活動しよう	72
(8) 「大変！電車が動かない」読み書きを取り入れて	77
(9) 「地震ワークショップ」複数の団体が連携して.....	83
3. 活動案や教材類の共有	86
おわりに.....	87

I. 活動を考える前に



まずは、教室での具体的な活動を考える前に、教室のことや一緒に活動する人々（学習者やボランティア）のこと、そしてボランティアのひとりである、わたし自身のことを考えてみます。

1. 地域に暮らす外国人

Q. 現在、日本にはどのくらい外国人がいるのでしょうか。



●日本の在留外国人数は

203万8,159人（2012年末現在）

日本総人口比 1.6%

*在留外国人・・・中長期在留者と特別永住者を合わせた外国人で、旅行者などの短期滞在者は含みません。

*法務省入国管理局HP http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri04_00030.html



日本語教室の学習者には、上記の数字の中に含まれない人も多くいます。

帰化した人、また家庭内言語が日本語ではない子どもたちなど、日本国籍であっても日本語に困難を感じる人たちです。

そういう人に対して「外国につながる」、「外国にルーツを持つ」などの表現が使われる場合もあります。

☞ 日頃、どんなところで外国人と出会うでしょうか。

Q. 現在、神奈川県には、どのくらい外国人がいるのでしょうか。



●神奈川県内の在留外国人数は
16万1,155人（2012年末現在）

外国籍県民比率 1.8%
（全国では 1.6%）

Q. 神奈川県内では、どの市町村に多いのでしょうか。どこの出身者が多いのでしょうか。

●外国籍住民の比率が高い県内の市町村

① 愛川町 5.4% ② 綾瀬市 3.3% ③ 大和市 2.4%

* 横浜市中区(10.2%)など、外国人比率が
さらに高い地区もあります。

●県内在留外国人出身地別構成比

①中国 34.3% ②韓国・朝鮮 19.0% ③フィリピン 11.0%

④ブラジル 5.6% ⑤ペルー4.2% ⑥ベトナム4.0%

*データは、2012年末の在留外国人数と2013年1月1日の県人口から算出したものです。

神奈川県 HP「神奈川県人口統計調査公表資料」 <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6774/p520876.html>

「県内外国人統計」 <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f4695/>

☞皆さんの市町村には、どのくらい外国人がいるのでしょうか。

（市町村のHPに載っている場合もあります。）

皆さんの地域や教室には、どこから来た人が多いのでしょうか。



2. 教室を知る

Q. 教室に来ている人は、どんな人が多いですか。



出身地域は？

東アジア／南アジア／中南米／欧米／その他

日本に来た理由は？

仕事／勉強／家族の仕事で／日本人との結婚で／その他

日本語を学ぶ理由は？

日常生活のため／人づき合いのため／仕事のため／家族のため／日本語能力試験／その他

漢字圏／非漢字圏？



日本語をどこで誰と使う？

仕事で／家族と／友達や同僚と／買い物／日本語教室／その他



学習者の母語によって、漢字や媒介語の利用など、やり取りのしかたも変わってきます。

とはいえ、中国、韓国出身でも漢字学習経験がなく、漢字がわからない方もいます。中国の朝鮮族や、韓国系カナダ人、複数の国への移住経験を持つ人など、国籍だけではわからない多言語多文化を持っている方もいます。

Q. 地域の日本語教室は、いろいろなタイプの教室があります。
あなたの教室は、どんなタイプの教室ですか。



教室の目的

学習者が日本語を学ぶ

学習者が日本社会などを知る

ボランティアが〇〇を学ぶ

国際理解・国際交流

ボランティアと学習者が学び合う

その他

活動スタイル

ペア

中グループ (6人～)

小グループ(3～5人)

教室全体と一緒に

その他

活動内容

文法文型中心
〔文法や文型を体系的に学ぶ日本語学習〕

タスク中心
〔目標達成のための日本語学習
例：道を聞く／銀行口座を作る
／頼む／謝る〕

対話中心
〔テーマなどで話し合う〕

その他

3. 互いに知り合う



学習者の出身地のことや、好きなもの、興味のあることなどに、話の糸口や、日本語学習にも活かせるヒントがたくさんあります。しかし、「知り合う」とは、互いの情報をたくさん持つことではなく、むしろ心あるやりとりを通して互いのニーズを知り、理解を深めていくことではないでしょうか。

今、学習者が何を必要としているか、そして、それは何のためかがわかると、地域で暮らしていくために必要なことへ、学習者をつなげることができます。

例えば・・・①地域の人々へつなげる



〇〇さんは、カラオケに行きますか？

カラオケ、好きです。歌、上手じゃないけど、好きです。教会でよく歌いました。

そうなんですか。町内にゴスペルのサークルがありますよ。今度コンサートがあるみたいだけど、行ってみませんか。



はい、行きたいです。いつですか？



地域や人とのつながりは、移動してきた外国人にとっても安全で豊かに暮らすためのセーフティーネット（安全網）になります。同じ地域を共有しているボランティアだったら、地域の人々や地域イベントなどにもつなげられ、セーフティーネットを広げるお手伝いができます。

例えば・・・②日本語学習へ活用する



〇〇さんは、
料理をしますか？

はい。料理、好き
です。日本料理が
知りたいです。

そうですか。私は韓国
料理が知りたいので、
教えてください。私も日
本料理を教えます。



はい。天ぷらが作りた
いです。韓国料理は何
がいいですか？

文法の「動詞て形」学習に〇〇さんの趣味を活用し、料理レシピを読んで理解し、自分でもレシピを書く活動をする。

- ①「動詞て形」を使った簡単な日本料理レシピを事前に作成しておく。
レシピの文中の「動詞て形」を意識させながら、内容を読んで理解してもらう。
- ②次に、〇〇さんにレシピを書いてもらう。まずは、短文を重ねたレシピでOK。
(例：①にんじんの皮をむきます。小さく切ります。フライパンに油を入れます。揚げます。)

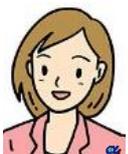


私は、2つの文を「～て」
でつないで書きました。
〇〇さんのレシピも、
そうしましょうか。

はい。どう
しますか？



- ③「動詞て形」の活用を紹介し、「動詞て形」を使ってレシピを完成させる。
その後、他のボランティアや学習者にも、レシピを紹介する。



〇〇さんが料理好きだとわかったら、他にも、地場産の食材の話や料理教室などの活動ができます。もしかしたら、地元の食材が学習者の食卓に並ぶかもしれませんね。

学習者の興味関心を生かした活動は、生き生きとした学びにつながります。

でも、まだ気心がしれな
いうちは根掘り葉掘り
聞けないよね。

教室に来た時に
必要事項は聞いて
いるしね・・・。



あれこれ聞き出すのは、何か人の情報
を管理するようで抵抗があるなあ。
友達にそんなことは聞かないでしょ。
もし、学習者カルテみたいなものがある
と知ったら、私は嫌だな。



相手のことを理解したいと思ったら、「知りたい」という欲
求が出てくるのは自然なことです。でも、「知りたい」という
気持ちが情報集めになってしまうと、身元調査のようになり
かねません。

でも、相互理解や話のヒント、学習への活用のためには、
やはり相手のことを知ることが大切です。調査書を作るので
はなく、心のメモにできればいいですね。



- ☞ 心のメモとして知っておくといいいことは、何でしょうか。
例えば、次のようなことでしょうか。



Q. 学習者のどんなことをメモしておく、活動に活かせるでしょうか。

● _____さん
_____代(例:30代)男・女
出身地域: _____
母語: _____

●日本滞在

_____年 _____ヶ月
滞在目的:
どこ:
だれと:

●家族

・
・

●出身地_____のこと

・
・
・
・
・

●好きなもの

食べ物:

スポーツ:

音楽:

趣味:

●出身地でしていたこと

・
・
・例:小学校で教師をしていた。



_____さん



●_____さんの日本語

・_____で、
_____ヶ月勉強した。
・_____で日本語を使う。
・日本語で_____
_____ようになりたい。
・

●_____さん エピソード

・
・
・
・
・
・
・
・
・例:先月自転車が壊れたので歩いて教室まで来ている。

*いろんなエピソードが聞けると、それが宝物になりますね。

コラム「共生を学ぶ場としての日本語教室」



外国人が地域の日本語教室に来るとき、最初に期待するものは日本語学習です。ところが、しばらく通うと、そこでは日本語だけでなく、日本での暮らしのノウハウや地域生活全般の情報が得られることを知り、日本語の勉強もさりながら、ボランティアや他の学習者など、教室に来る人たちと会うことが楽しみになっていきます。

一方、ボランティアの人からは「勉強させてもらうのはこっちの方よ」といった声がしばしば上がります。学習者からは、その国や文化のことはもちろん、助け合い、家族のつながり、苦境での明るさなどから、主張の強さや交渉のたくましさに至るまで、いろいろな刺激を受けることができます。

こうした経験を経て、ボランティアのみなさんは、最初ただの外国人として接した方を「〇〇さん」というその方の名前でも心に刻み、信頼し、大切な友人に数えていくのだと思います。友人が日本社会で不自由な目にあったり、差別されたりするのは耐えられないことです。

しかし、長い間、日本では、同じ言葉を話し、同質の文化背景を持つ日本人が圧倒的多数であったため、「常識」の一言ですべてが片付けられたり、「言わなくてもわかる」といった阿吽の呼吸が評価されたり、と、文化を異にする人たちが一緒に暮らすことが、まだまだ容易ではありません。GDPを支え続けるために、もっと外国人を招き入れないといけないといわれているのにもかかわらず、です。

そんな日本社会の片隅にありながら、地域の日本語教室は異文化の人たちと最も多く接触する場所です。異文化に最前線向き合っています。そこでボランティアとして活動される皆さんにとっては、教室はすでに多くのことを学べる場ですが、その学びに対して今少し意識的になってはいかがでしょう。日本語教室は外国人だけの学習の場から「ともに学ぶ場」に変わります。

何を学びとるのか、といえば、学習者とのやり取りから「ともに暮らす社会のありかた」、「ともに暮らす知恵」、「ともに暮らす豊かさ」などがあげられます。学習者の態度に、時に立腹したり、涙したりしながら、紆余曲折の末、最後は堅く手を握りあうことができる喜び。それを教室外の地域の日本人に発信していただければ、少しずつ異なる文化背景の人と接することに慣れ、地域社会も変わっていくに違いありません。

日本語教室はささやかな場所ですが、共生の知恵を学び、社会に働きかけられる場所であることもまた確かなのです。

コラム「心がとけちゃった」

ミカさん(30歳代女性)：11年前に日本人と結婚、子どもがいる。



私がずっと通っている日本語教室では、日本語の勉強だけではなく、言葉以外のコミュニケーションも教えてくれました。実は友達も別の日本語教室に通っていましたが「日本語の勉強だけで冷たい」と言ってすぐにやめてしまいました。教室に日本語だけを勉強に来る人は少ないと思います。「日本語教室」だけど、求めているのはそれだけじゃなく「居場所」。絶対欲しがっていると思います。学習者の中には、DVの被害を受けるなど、家族に恵まれない人もいますが、家族のような「居場所」(＝日本語教室)があると、心が強くなれます。

日本に来たときは言葉さえもわからず、自分が何もできない子供に戻ったかのように感じました。母国では幼い兄弟の世話をし、何でも自信があったのに、日本に来たら小学生以下のレベルで、毎日くやしくて、くやしくて…。でも日本語教室で、小さなことを1つ1つ重ねていけば、日本でも一人前の大人になれるということを教わった気がします。

何年かして、私はボランティアたちが活動後に行っているミーティングに興味を持ち、自分から参加するようになりました。話し合いを聞いて、ボランティアのみなさんがここまで私たちのことを考えてくれているんだと、そのとき初めて知り、もう感激で「心がとけちゃった」んですよ。ボランティアのみなさんの素晴らしさを知ってから、もっと日本語が上手になったら、私も誰かの役に立ちたいという夢ができました。教室に通う外国人に「私もボランティアできるかな」という気持ちが生まれ、活動できる場所があるということはとても大事なことです。それに、日本語を知らなかった私が感じたり思いついたりしたことは、ベテランのボランティアでも思いつかないかもしれません。私のような教室で長く学んできた学習者は、新しい扉を開くいい「カギ」になると思います。だから、日本語教室で長く学んだ学習者には、教室に残ってボランティアをして欲しいです。

一方、日本人は外国人に対して遠慮して物を言わなさすぎます。外国人にははっきり伝えても大丈夫です。でも、伝え方はとても大切ですね。叱られた、怒られたと感じたら、ずっと心に残ってしまいますから。相手の気持ちを考えて、言い方・タイミング・表情・スキップなどを大事にして伝えたら、外国人の勉強にもなります。

それに、ボランティアがお金をもらっていないことを知らない学習者も多いんですよ。「あんなに一生懸命教えてくれる人が、お金をもらっていないわけがない。国からもらっているに決まっているじゃない。」という人もいます。学習者が初めて教室に来たときなどに知らせた方がいいと思います。知っていたら、学習者側もちょっと違うと思います。



最後に将来の夢を聞くと、「夢は歌手です。でも、私のまわりに人が集まるようになるといい。人とコミュニケーションをとって、できるだけ何かの役に立ちたい。本当の私を失いたくない。」と語る笑顔が素敵なミカさんでした。

Ⅱ. 活動を考える



1. 活動の種類とバランス

日本語教室では、以下のようないろいろな活動が行われており多くの教室はこれらを組み合わせて活動をしています。

では、教材『つながる にほんご』は、どのような活動に使えるのでしょうか。

文法文型活動

文法積み上げ式の教科書（例『みんなの日本語』）を使い、日本語の文法文型を難易度順に学ぶ活動

→教材『つながる にほんご』は、文法文型を学ぶために構成された教材ではないので、文法文型活動に利用する場合、かなり工夫が必要です。

場面・タスク活動

コミュニケーションが必要な場面（郵便局、レストランなど）や達成すべきタスク（欠席連絡、道を聞く）などがあり、その際に必要な知識や日本語表現を知る活動

→教材『つながる にほんご』で活動できます。

主に、「2.6 話 バスに乗りましょう」「3.4 話 健康診断」「4.4 話 子どものようす②」「4.5 話 ママ友」「4.8 話 担任の先生に連絡する」などです。

^{*2}対話活動

興味のある話題で、互いの考えや想いを交わす対話を重ねながら相手や自分を理解し、そこから自分の考えをより深めていく活動

→教材『つながる にほんご』で活動ができます。

どのテーマでも対話活動へつなげられますが、「対話」は互いのコミュニケーションによって生み出されるため、教材からどう話題を発展させるかがポイントになるでしょう。

*2：対話…人と人との話のやりとりのうち、特に、異なる価値観を持った人との情報共有や価値の擦合せを目指すやりとりのこと。詳しく知りたい場合は『対話のレッスン』（2001）など平田オリザ氏の著作がお勧めです。

テーマ活動

お盆、お正月、節電、地震など、テーマを基に「日本語学習・タスク達成・対話」などをすることが目的の活動で、複合的な活動です。

また、「日本語学習」などを目的とせず、単にテーマについて知る、又は体験する活動もあります。(例：すもう、習字、節分)

→教材『つながる にほんご』で活動ができます。

教材内の各話が上記のテーマに当たります。

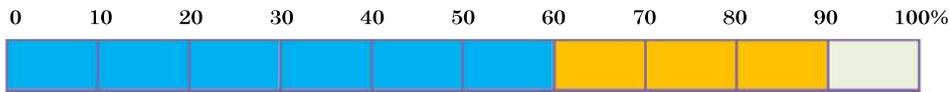
交流イベント活動

各国料理会、お花見、見学旅行、バザー、スピーチコンテスト、地域フェスティバルなどのイベントとその準備活動

→この活動では通常教材は使いませんが、例えば、見学旅行の準備として「2.6 話 バスに乗りましょう」「5.6 話 防災センター」「5. 話 防災訓練」を使ったり、スピーチ題材を考えるための材料として「1.2 話 私たちの神奈川」を使ったりすることができます。

☞ 皆さんの教室はどんな活動が多いでしょうか。活動はどんな割合になっているでしょう。

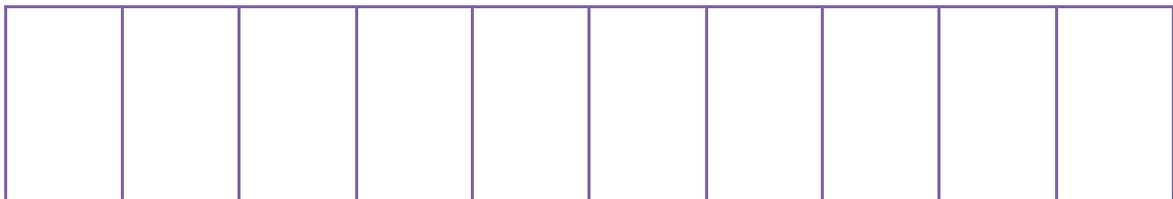
うちの教室は、初めの1時間はペアで教科書を使って文法などを勉強しています。その後、残りの30分は5、6人のグループに別れ、その日の当番が決めたテーマをみんなで話します。司会進行を中上級学習者がするから、ボランティアがリードする活動とは違って、学習者も生き生きと話していますね。それに時々、お花見やバザーイベントもするし。だから全体的には…



うちの教室は、①文法文型 60% ③対話 30% ⑤交流イベント 10%ですね。

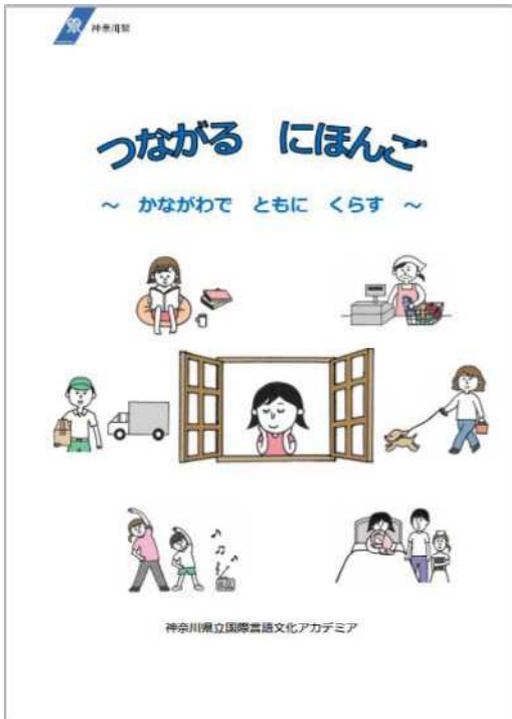


0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100%



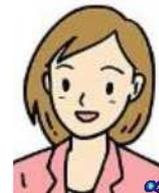
2. 教材『つながる にほんご』を使った活動

(1) 教材『つながる にほんご』とは



タイトルにもあるように、人と人、また、人と地域がつながるための日本語を目指した教材です。教室に参加する学習者もボランティアも、同じ地域の住民として互いに尊重しあいながらともに暮らし、より豊かに生きていく力を目指しています。

具体的には、以下の目標を意識しています。



『つながる にほんご』の目標

- ① 双方向コミュニケーション（相手を尊重し、傾聴しあう姿勢）を重視する。
- ② 社会で豊かに「生きていく力」（社会資源の理解や活用など）につなげる。
- ③ 対話を通じて支援者も学習者もそれぞれの課題を発見し、一緒に解決を探る。
- ④ 教室の外への働きかけやつながり（社会参加）を生み出す。



日本社会の中で暮らすためには、おなじみの4技能（読む・書く・聞く・話す）以外にも「人とつながり、社会で生きていく力」が必要です。その力が『つながる にほんご』の目標とする力です。

そのため、日本語の習得についても、語句や文法の正確さより、現実にかげできる力 d の方を優先しています。文法的に正しい表現よりも、「相手が快く受け入れてくれる表現」ができる方が大切です。

でも、どんな人が、
どんなふうにする
教材なんだろう？



ボランティアと学習者が一緒に活動するための教材です。
ペアよりもグループで使った方が、それぞれの経験や考え方の違いや発見が
あって、楽しい活動になります。ペア活動が基本の教室でも、2、3ペアを1
グループにして、特別活動として楽しんではどうでしょう。



日本語学習者は、一般的な「日本語力」で言えば、「ひらがなが読
める日本語初級前半」（『みんなの日本語』初級Ⅰ終了）くらいの方を
イメージしています。

しかし、「日本語力」は一概に測れませんし、使い方によっては、
日本語入門の人とも活動できます。（p48の実践例 参照）

文法などの体系的な日本語学習には、すでにある教材が数多くあるので、
『つながる にほんご』には、体系的な日本語学習はあえて入れませんでした。
また、連続学習も想定していないので、どこからはじめても、一部分だけ
使用してもかまいません。

地域の日本語教室は、外国人が主に日本語を学ぶための場として開かれ、その日本
語学習を支える人は「(日本語) ボランティア」と呼ばれています。しかし学習者にと
って、地域の日本語教室は、日本語学習だけではなく、日本社会や日本人とのつきあ
い方を知り、地域生活などの情報を収集し、人と知り合いつながる場でもあります。

また、最近では、外国人だけではなく、「日本人も、同じ地域の住民として共に生き
るために、学ぶべきだ」という声も聞かれるようになりました。そうした考え方から
すれば、教室に関わるすべての人が学ぶ人といえるでしょう。

『つながる にほんご』はその副題で「かながわで ともし
くらす」とうたっているように、日本語を介した場での
共生の学びが生まれることを願っています。



(2) 活動案を立てる

。教室活動で『つながる にほんご』を使うとしたら、どういう位置づけで使いますか。

- | |
|---------------------------------------|
| A. 『つながる にほんご』を、毎回活動のベース教材として使う |
| B. いつもは他の教材を使っているが、1回だけ『つながる にほんご』を使う |
| C. いつもの活動の合間に、15分～30分の活動として使う |



もちろん、Aでもいいのですが、おそらく、B、Cの使い方をすることが多いのではないのでしょうか。

では、Cのように使うとして、まずは、30分の活動を考えてみましょう。

活動を考える手順

1) 『つながる にほんご』から、学習者に必要な（又は、興味がある）テーマ、話題を探します。



行動範囲を広げてほしいから「交通」のテーマにして、
〇〇さんは教室まで自転車で20分かけて来るから、
「2話 自転車ルール」にしてみよう。

2) 扱う話題（～話）の内容を考え、どのような順番で行うか考えます。

活動は、次のような構成で組み立てます。

- ①導入・・・テーマに関係がある軽い活動。ゲーム等をする場合もありますが、簡単な問いかけから始まる場合も多いです。
- ②展開・・・基本内容を扱う、活動の中心部分です。
- ③発展・・・②の応用、発展、+αの内容です。省略する場合があります。
- ④まとめ・・・①～③をまとめる活動です。



- ① 導入：『つながる にほんご』の2.2話 1(2) (p20) を話そう。
- ② 展開：『つながる にほんご』の2.2話 2(1)(3)～(7) (p20-22) の切り抜いたイラストだけを見せ、〇×などを話そう。
- ③ 発展：それぞれの国の自転車ルールを聞こう。
- ④ まとめ：『つながる にほんご』の2.2話 2 (p20-22) を使おう。

→この活動プランをまとめると、次のようになります。

活動素案（30分）

活動グループ：3人 ○○さん（中国）、△△さん（韓国）、□□さん（タイ）

活動目的：日本の自転車事情を知り、生活に生かす。

活動目標：出身地域との自転車事情の違いを理解し、日本の自転車ルールを知り、安全に利用できるようになる。

（乗らない人も、社会マナーや歩行者の立場として知っておく）

準備：『つながる にほんご』（p20-22）のイラスト〔2.2話 2（1）（3）～（8）の枚〕をカード化しておく。

①雑談（それとなく、自転車の話題を出す）



イラスト a



イラスト b

②みんなの国の自転車事情を聞く。

③イラストカード を見せ、日本の交通ルールでは かどうか、聞く。

④文型学習「自転車は、3人まで のってもいいです。（5人で のってはいけません。）」

⑤イラストカード を見せ、「傘をさして、のってもいいですか？」

「携帯電話で話します。のってもいいですか？」

⑥文型学習「携帯電話で 話しながら、のってもいいですか？」

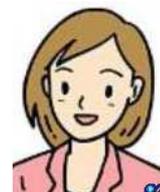
⑦その他のイラストカードを見せ、同様に交通ルール上 かどうか、みんなで考える。

⑧各国の交通ルールも一緒に聞いてみる。

⑨最後に『つながる にほんご』2.2話 2（p20-22）で日本の自転車ルールを復習確認。

*（8）→被害者になった場合の対処法（交番への届け出、相手の連絡先、保険）も確認する。

コラム「私は何？ — 自己紹介の落とし穴」



初級の最初は自己紹介で始まります。「〇〇です」と簡単な名詞文です。〇〇に入るのは、名前、国（～人）、職業、年齢などが代表的です。

問題は職業です。学習者の中には仕事をしていない人もいます。在留資格の問題や、日本語力のせいで働けないのかもしれませんが。その人が女性の場合、空欄には職業名のかわりに「主婦」の二文字を入れて教えてはいませんか。

「主婦」も社会を支えるりっぱな一員だと考える文化背景があれば、誇りをもって「主婦」と名乗れます。しかし、「主婦」と言われることをとても残念に感じる人もいます。

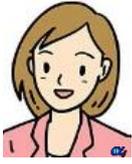
私は貿易事務をこなしてきた、自動車販売店のマネージャーだった、土木関連の専門的な計算をしてきた…彼女たちがそれまで築いてきたキャリアが日本では無に帰したような気持ちになります。「今はしていない」だけなのに、「外で働いたことがない」人のように扱われていると感じるそうです。ボランティアのほうは決してそんなことを思っていないのですが。

ですから、現在「主婦」である人たちには、「お国で仕事は？」を尋ねてみてください。日本語ゼロでは無理かもしれませんが、一生懸命伝えてくれるのではないのでしょうか。指差し会話帳などを利用してよいですね。そしてその後、それにふさわしい「日本語」を見つけ出してあげることが、日本語ボランティアの役割だと思います。

十分内容を聞かないで「ああ、ね」は です。仕事はその人の社会的なアイデンティティなので。所属でなく仕事内容で理解されたいという思いが強い人もいます。これぞというぴったりの呼称が見当たらないときには、「〇〇関係の専門職」という表現も便利です。それに、そういう言葉こそが、彼女たちが日本社会へ歩みを進める時に大事な言葉なのです。

Ⅲ. 活動のコツ

1. 地域の特性



地域日本語教室のいいところは、地域や生活に直結したことが学べることでしょう。学習者もボランティアも同じ地域に暮らしている人が多いので、生活に直結したことを題材にでき、ボランティアも同じ住民として一緒に学んだり、考えたりできます。また、地域のことを知ると、地域や地域の人々により親しみを感じることでしょう。

Q. 地域のどんなことを題材にしたら、生活に直結したことが学べるのでしょうか。

町には、どんな題材があるでしょうか。

●地域／町のイベント

例：桜祭り、七夕祭り、盆踊り、
花火大会、フリーマーケット、
公民館祭り、除夜の鐘つき

●町の面白どころ

例：観光名所、温泉、商店街、公園、
ショッピングセンター、自然（山、川、海）



●町の今と昔

例：街道、旧跡、
〇〇地蔵

●町の情報

例：多言語情報、病院、健康診断、住宅、
出産子育て、学校、防災、ハローワーク、
役所（住民登録など）、スポーツ、
公共施設、サークル

●地域の特産物など

例：鎌倉彫、
秦野落花生、
横須賀刃ガヤ、
三浦大根、
小田原梅干し



2. 対話のヒント

(1) ひらいた質問/とした質問



ボランティアからの問いかけで、活動がスタート…
でも、その問いかけ質問にも、学習者が答えやすい質問と
答えにくい質問があります。

● ひらいた質問 Open Question ●

どんな/どう/どうやって/どうして(なぜ)/どのように/
いつ/どこ/だれ/何…



→特に「どんな～どのように」は、答えの自由度が高すぎて答えにくい。
→しかし、話が深まる可能性がある。

日本はどう
ですか？

住みやすい

交通が便利

人が親切

物価が高い



どれを答えたらいいのかな？
いいことばかりじゃないけど…

まあいいか…

とてもいいです。

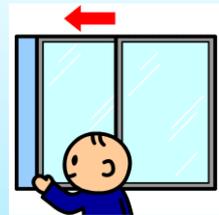
うーん、
何がいいの
かな？



● とじた質問 Closed Question ●

Aですか / AとB、どちらですか

→ 「はい」「いいえ」など、一言で答えられるような質問形式で、答えやすい。
→ とはいえ、一問一答で会話が深まらないことも…



日本の食べ物は
食べられますか？

はい、大丈夫で
す。でも、納豆は、
だめです。



日本語初級者であるほど、とじた質問を使うと、答えやすくなります。
ただし、一問一答式にならないように、内容が深まるような工夫も必要です。

◆例：「ひらいた質問」 → 「とじた質問」

ひらいた質問	とじた質問
「最近、どうですか。(学校/仕事は、どうですか。)」	「毎日、忙しいですか。」
「ここまで、どうやってきましたか。」	「ここまで電車で来ましたか。」
「 どんな 食べ物が好きですか。」	「果物は好きですか。」
「 どんな 音楽が好きですか。」	「クラシック(音楽)は好きですか。」
 「携帯電話を買いました。」 →  「 どうして 買いましたか。」	「前の携帯電話がこわれましたか。」



考えてみよう 下に出したのは、『つながる にほんご』p39「3.1 話 生活習慣」です。

3
けん こう
健康

～
1
話
わ
せい
かつ
しゅう
かん
生活
習慣
～

1. まいにち どのような 毎日ですか？

(1) こんしゅう 今週、なに 何か うんどう 運動を しましたか？

(2) ゆうべ ゆうべ なんじかん 何時間 ねましたか？

(3) けさ 今朝、なに 何を たべ 食べましたか？

2. けんこう 健康に いい ことを していますか？





Q. 学習者が答えやすい質問にするには、どうしたらいいか、考えてみましょう。

『つながる にほんご』の質問	答えやすい質問
1. 「どんな毎日ですか。」	
2. 「今週、何か運動をしましたか。」	
3. 「ゆうべ何時間ねましたか。」	
4. 「今朝、何を食べましたか。」	
5. 「健康にいいことをしていますか。」	

(2) 小刻み質問



ひらいた質問も答えにくいですが、とじた質問でも大きな質問だと、質問の意図を正確に捉えて一言で答えるのは難しいです。

日本は好きですか？

住んでいるといろいろあるし…。簡単には答えられないな…。



他にも…

大きな質問の例：△「日本料理は好きですか」

△「あなたの国では、紅茶とコーヒー、どちらをよく飲みますか」

△「〇〇人は、毎日△△を食べるんですか」

学習者は出身国の全てを知っているわけではないので、「国では？」
「〇〇人は？」と大きく聞かれると、答えに窮することもあります。
その場合、「〇〇さんは？」と学習者個人に対する質問にしたり、段階を踏んだ小さな質問（＝小刻み質問）を積み重ねていったりすると、学習者も答えやすいです。

ひらいた質問でも、大きな質問でも、小さな小刻みの質問を積み重ねていくと、最終的には聞きたかった答えに自然と行き着いたりします。



Q. 下に出したのは、『つながる にほんご』p19「2.1 話 何で来ますか」です。
 「1. うちから教室まで何分ですか？」を学習者が答えやすい質問にするには、
 どうしたらいいでしょう。

2 交 通
 ~ 1話 何で来ますか ~

1. うちから きょうしつ 教室まで なんぶん 何分ですか？

ある 歩いて？ じてんしゃ 自転車？ ばす バス？



©Johnny Inoue

ある 歩いて + ぶん 分です。

バス で * 1,3,6,8,10,何⇒ぶん

自転車 で



きょうしつ

教室



©Johnny Inoue



うち

©Johnny Inoue

すーぱー

スーパ一

〇〇スーパーマーケット



©Johnny Inoue

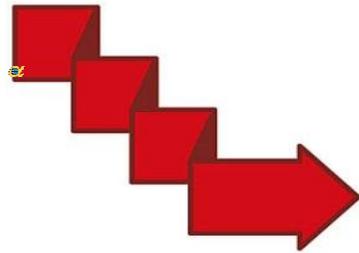
?



©Johnny Inoue

小刻みの質問にしてみると…

- ①うちから〇〇教室まで、歩いて来ましたか。
- ②電車で来ましたか。
- ③自転車で来ましたか。
- ④なにで来ましたか。
- ⑤私は自転車で〇分です。〇〇さんは、歩いて（〇〇で）何分ですか。



相手の反応や理解を確認しながら、段階を踏んだ小さな質問を重ねていくと、話のキャッチボールもでき、話題がふくらみます。



考えてみよう

Q. 次の質問を、学習者が答えやすい質問にするには、どうしたらいいでしょう。

1) 日本の生活に慣れましたか。

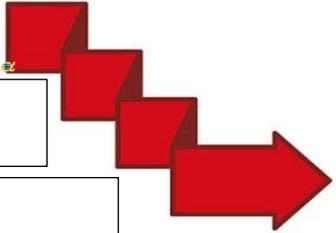
→ ①

②

③

④

⑤

2) お子さんは、元気に学校へ行っていますか。

→ ①

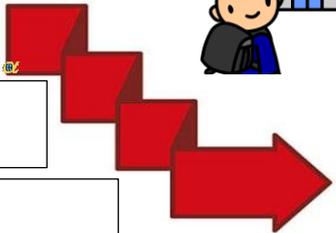
②

③

④

⑤





(3) 学習者が答えに困っているとき



学習者に問いかけても、答えるまでにとっても時間がかかることがあります。でも、答えられずに困っているからと、すぐに助け船を出しては、せっかく思い出そうとしているところを邪魔してしまうことになりかねません。

これでは学習機会を奪ってしまいます。答えに時間がかかる時、学習者の頭の中は、いろんなことが駆け巡っています。じっくり待つのもボランティアです。

答えに時間がかかる理由はいくつかあります。その理由によってボランティア側のサポートも異なるので、なぜ時間がかかっているのかを考えてみます。

理由①： 質問の意味（又は、意図）が分からない

お見舞いに行ったことがありますか？

お見舞いには、何を持っていくますか？



「おみまい」？

持っていきって、財布とか、携帯とか、持ち物のこと？

対応 →やさしい日本語に変え、もう一度、ゆっくり、はっきり、質問する。

- 語彙がわからないようなら、語彙説明をする。
- 意図がわからないようなら、状況や例なども加えてみる。



「“お見舞い”。病気の友だちに会いに、病院へ行きます。」



「病院にいる病気の友だちに、何を持っていくますか？私は、花や本を持っています。」

理由②： 質問は分かるが、答えるための日本語がわからない

チャプチェって、どうやって作るんですか？



作り方は知ってるけど、日本語でどう言えばいいのかな？

A. 答えるための日本語が未習

対応 → 答え（単語）の「母語→日本語」を、辞書などで一緒に調べる。

B. すでに知っている表現なのだが、忘れてるだけ

対応 → 出てくるまでじっくり待つ（待っても出てこない時はヒントを出す）。

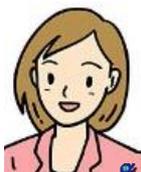
理由③： 質問は分かり、答えられるが、社会背景の説明が必要だったり、相手との関係性などでどこからどこまで話せばいいか分からなかったりして迷っている。

インド人って、ヒンドゥー教でしょ？牛は食べないの？



民族や宗教によっても違うし…。それに、牛の概念が日本と違って、水牛は食べるし…。どこからどうやって説明しようか…。

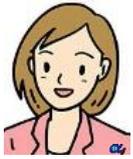
対応 → 学習者の判断をじっくり待つ。



答える時間がかかる理由は、理由②B や③の場合もあり、相手からの言葉をじっくり待つことが、とても大切です。

「待つこと」は意外に難しいものですが、待っている間、ボランティアも外国語（英語など）でどう言うかを考えてみると、自然に待てるかもしれません。

3. 話題のヒント



『つながる にほんご』で扱われている話題以外にも、扱ってみたい話題がいろいろあるでしょう。新たな活動の話題を見つけ、その話題を豊かに膨らませ広げていくには、どうしたらいいでしょう。

話題って、どうやって見つければいいのか？



(1) 話題の見つけかた

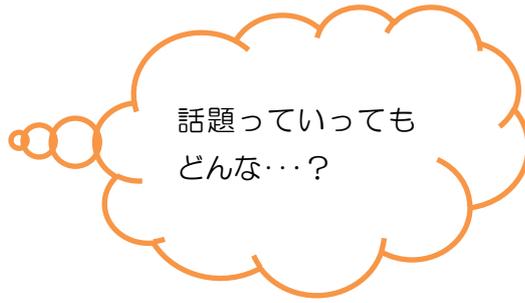
「学習者が興味を持つ話題、学習者に必要な話題、学習者が話せる話題」をリストアップしてみます。

- ① _____ ()
- ② _____ ()
- ③ _____ ()
- ④ _____ ()
- ⑤ _____ ()
- ⑥ _____ ()
- ⑦ _____ ()
- ⑧ _____ ()
- ⑨ _____ ()
- ⑩ _____ ()



グループ全員の興味に合わせるのは、難しいかもしれませんが、提示のしかたを工夫すれば、関心をもってもらえます。(映像、共有知識の利用など)

リストアップしたら、優先順位も考えてみよう。



参考 話題例① 互いのことを知るために〔対話編〕

- 互いのこと : 名前 (由来)、性格、家族、近所 (公園、スーパー)、家 (部屋)、仕事、好きな○○ (食べ物など)、趣味 (音楽、映画、スポーツ、まんが、小説、旅行、ダンス)、特技、得意料理、お気に入り (マイブーム)、習い事、食事、健康、記念日、ペット、夢、民族衣装
- 互いの国のこと : 気候、行事、有名なところ、食べ物、民族、言語、習慣、文化、芸能、祭り
- 地域のこと : 面白い場所、無料 (格安) の穴場 (公共施設など)、安くておいしい店
- 経験したこと : 最近の出来事、旅行、子どものころ、びっくりしたこと、困ったこと、初めての○○、日本に来て一番○○、今までの人生のこと
- 日常生活 : 買い物 (店)、私の1日、休みの日、家事、テレビ番組
- 語り合い : 理想の恋人、時間の使い方、「もしも~たら」、日本の不思議なこと、環境問題、子育て、プレゼント、食文化、食の安全、色、携帯電話マナー



話題を考える前に、「何のために活動するのか」=活動目的をしっかりと決めておくと、活動のイメージが湧きやすいです。

例えば、「互いを知る」、「○○を理解する」、「○○を知る」、「○○できるようにする」、「○○を楽しむ」、「日本語上達」、「○○能力を高める (挑戦)」など…

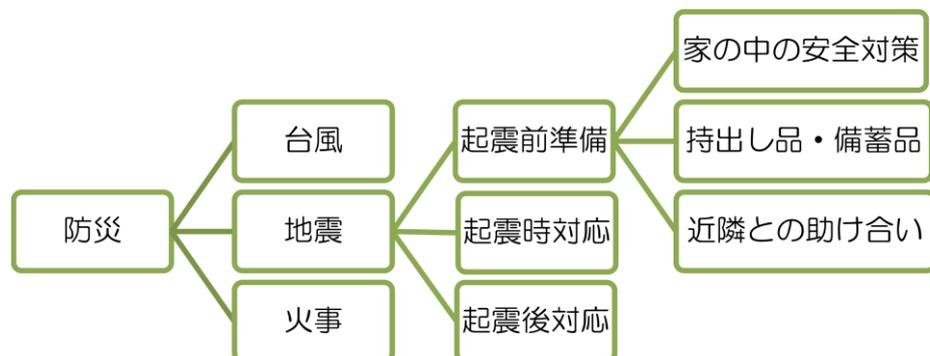
活動目的は、活動メンバーによっても異なり、活動ごとに異なることもあるでしょう。最終的な活動目的を意識しながら活動を考えていましょう。

参考 話題例② 日本社会で生活するために〔Can-do 編〕

- 健康 : 病院、病気、薬、体にいいこと（食べ物、運動）、生活習慣病の予防
- 安全 : 防災（地震、火事、台風など）、事故・けがの手当、救急車
- 生活 : 衣食住、買い物、ごみ、水道・ガス・電気、銀行、郵便局、税金、天気予報
- 移動 : バス、電車、車、タクシー、自転車、歩き、飛行機、船、空港、駅、バス停
- 人とつき合う : あいさつ、町内会、PTA、職場、贈答、年賀状、冠婚葬祭、飲み会
- 公的手続き : 在留資格更新、住民登録、各種届出、役所、大使館
- 地域参加 : 地域の祭り（盆踊りなど）、地域の清掃、防災訓練、学校の行事、バザー、公民館
- 余暇 : 趣味、社会活動（ボランティアなど）
- 通信 : 電話、携帯電話、FAX、Eメール、インターネット、手紙、小包、郵便、電報、送金、宅急便
- 子育て／教育 : 出産、子育て、保育園（幼稚園）、小中学校、高校、大学、PTA
進学、教育システム、奨学金、学資保険、学資ローン
- 学ぶ : 日本語、資格・免許（運転免許、介護福祉士など）
- 働く : 就職活動、履歴書、面接、敬語、電話対応、人間関係



「防災」の話題でも、以下のようにさらに話題は広がります。



全部を扱おうとせず、的を絞るといいですね。

(2) 話題の広げかた

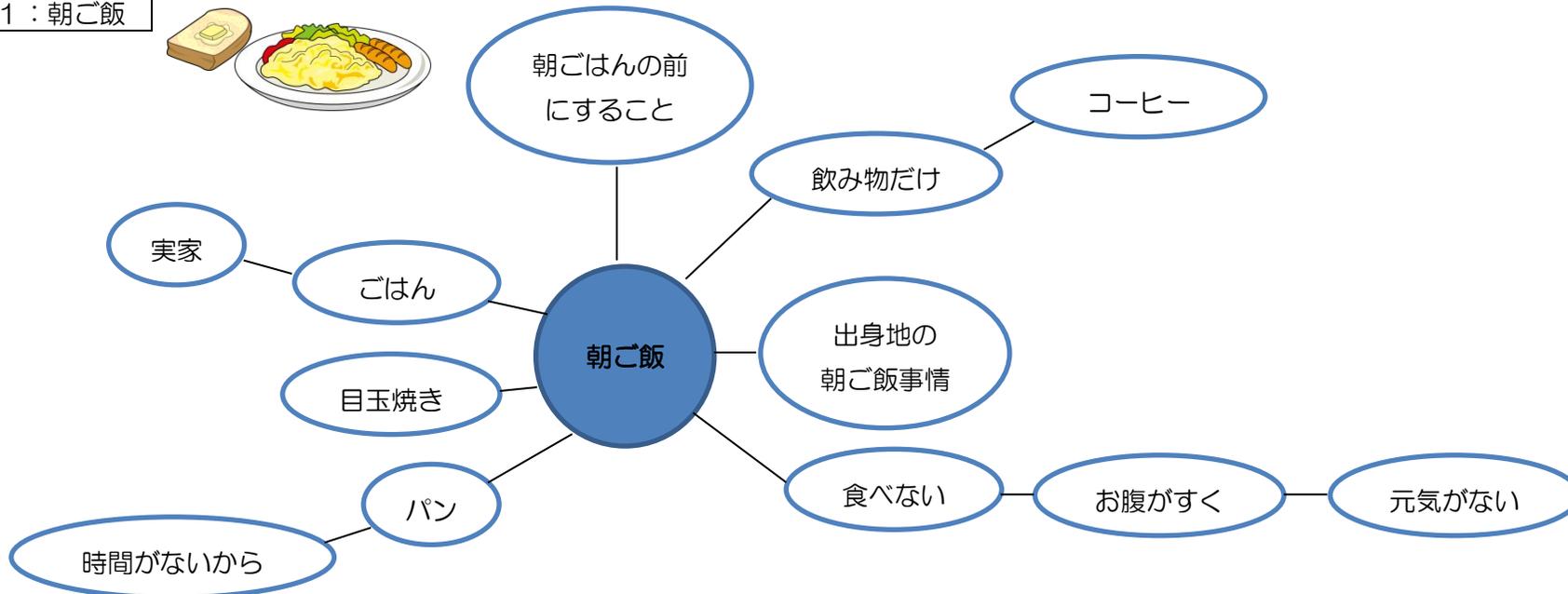


話題が決まったら、その話題をどのように、どこまで扱うかを考えます。まずは、自分の中で話題を自由に広げて考えてみます。その後、広げた中から扱う範囲を決めます。
アイデアを広げるために、「アイデアマップ」という方法があります。

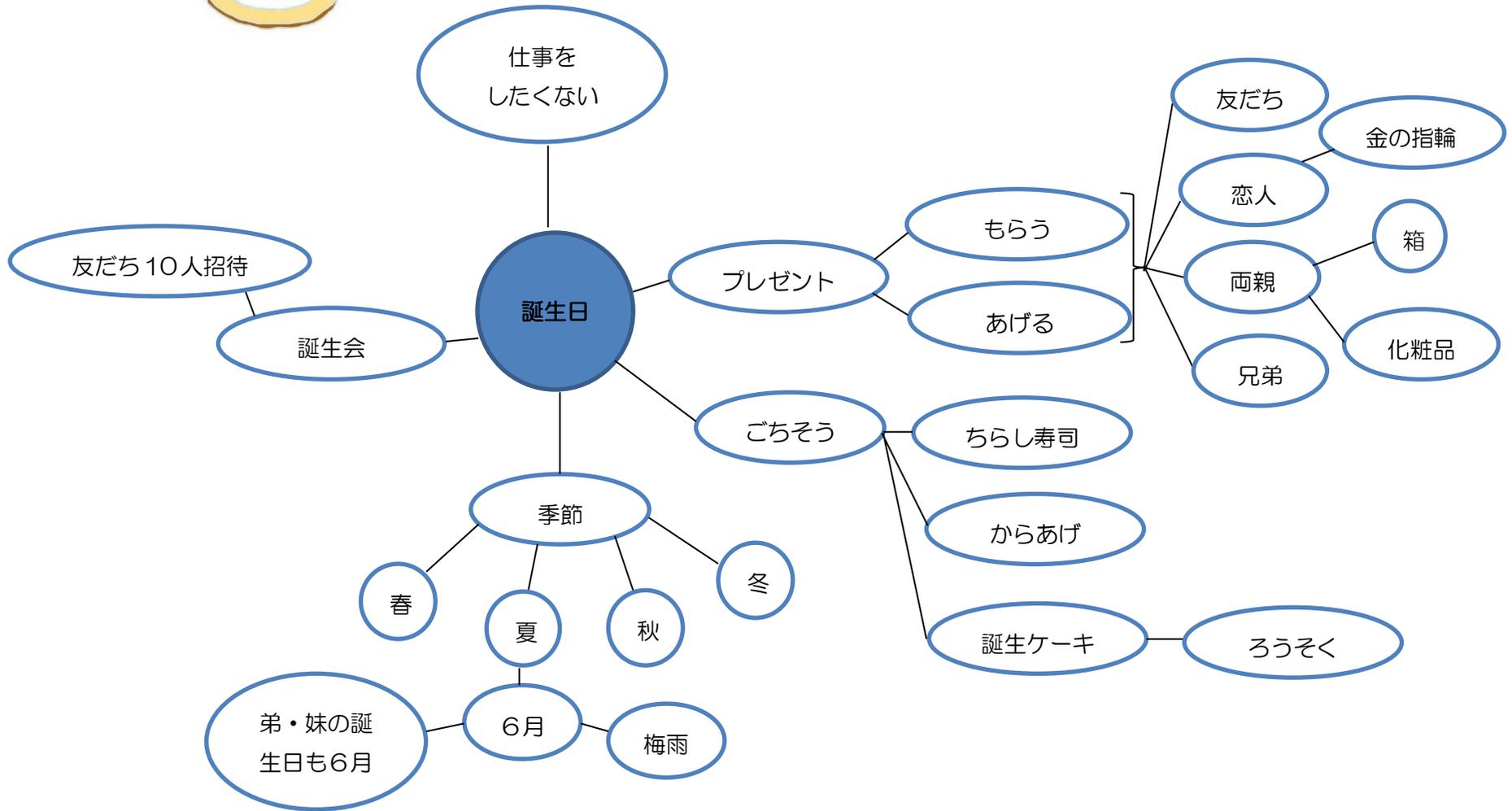
「アイデアマップ」の手順

- 1) 白紙の真ん中に話題（例：朝ご飯）を書き、その周りに放射線状に線を引き、連想する言葉を自由に書いていきます。まだアイデアを出す段階なので、あまり考え込まず、思いつくままにどんどん書きます。

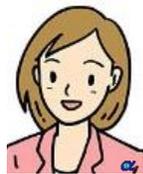
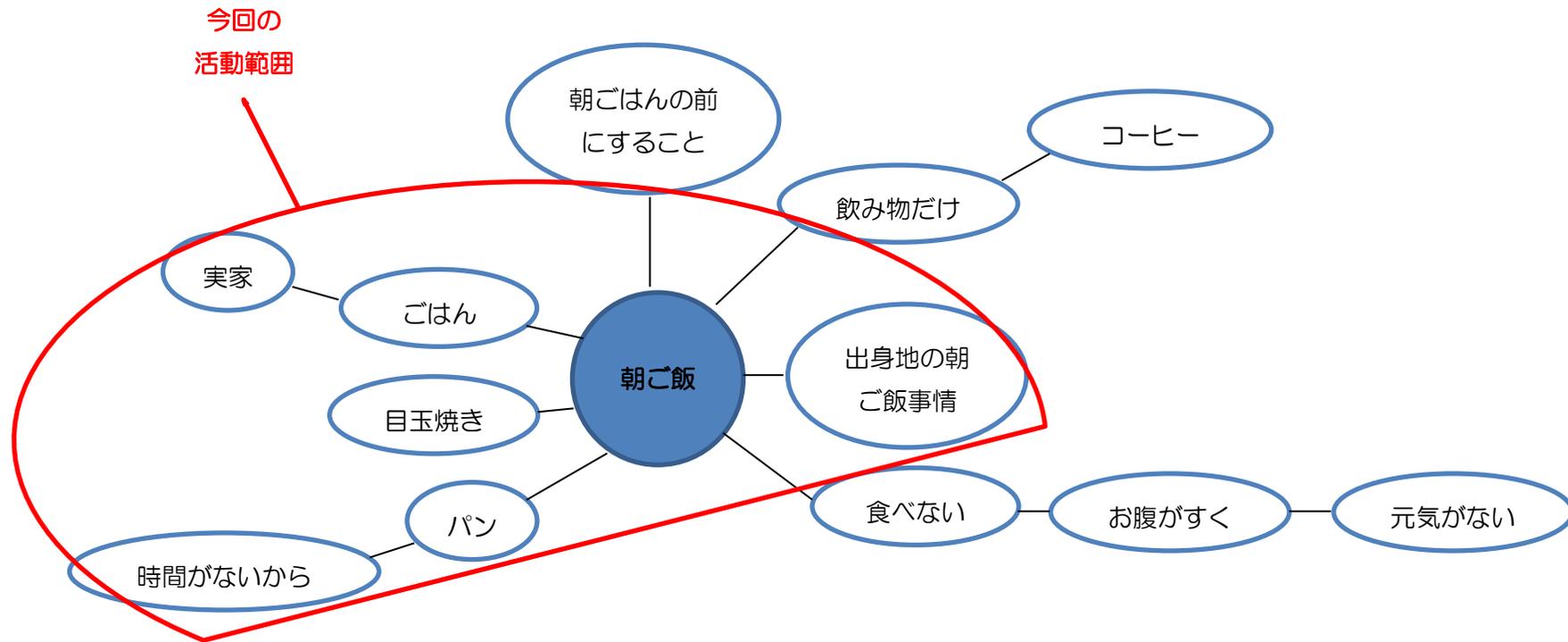
例1：朝ご飯



例2：誕生日



2) 話題のイメージが広がったら、その中からどの部分を教室活動で扱うか考えます。



個人的なことでもいいので、どんどん書いてみて、活動の種を作ります。その後、学習者の興味がありそうな範囲を切り取って、アイデアを大きく育てましょう。

(3) 話題の深めかた

活動のテーマ範囲を考えたら、相手とのやりとりが一问一答で終わらないよう、話の深め方をイメージしましょう。



テーマを深めるには、相手の答えを拾って、質問を重ねていく方法があります。(例 A:誕生日は6月です。→B:6月は暑い季節ですか。)それでもなかなか思い浮かばなければ、「いつ、どこ、だれと、なぜ、A or B? 故郷では?」などを入れて聞いてみてはどうでしょう。

例①:



今朝、朝ご飯を食べましたか?

食べました。

何を食べましたか?

卵。焼きます。

目玉焼き? 卵焼き?

?

(イラストを描いて)「目玉焼き」?

そうそう、めだまやき。

ネパールでも、同じですか?

違う。ミルクティー。

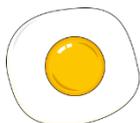
ああ、牛乳がたくさん入った
甘いミルクティーでしたよ
ね。ネパールでもミルクっ
て、スーパーで買うの?

朝、売りに来ます。6時。朝だけ買います。

え? 朝だけ? 朝、買えなかったら?

次の朝。店にありません。

ええー。じゃ、起きるのが遅い私は買えないな。





大丈夫。私が買います。(笑)



買ってくれますか？(笑)

買ってくれます。(笑)

「買ってあげます」

あ、買ってあげます。

ありがとう。(笑)

例②：



誕生日は、何をしますか？ 私は、ケーキを食べます。

私も、ケーキ。そして、餃子を食べます。



いいですね。誰が作りますか？

私、作ります。

え？どうして、○△さんが作りますか？

誕生日だから、みんな、招待します。

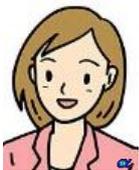
え？中国では誕生日の人がごちそうするの？

はい。日本は違いますか？



日本は、家族が作るか、レストランへ行きます。じゃ、次の誕生日は招待して下さいね。(笑)

ここは日本ですから、どっちがごちそうしますか。(笑)



質問してもやり取りが続かず、学習者の答えに「あ、そうですか」で終わってしまうのは、もったいないです。せめて、2、3往復のやり取りができるといいですね。

また、一方的に質問するだけでなく、自分の話も例として入れながら話を進めると、学習者にも分かりやすいでしょう。

そのうち、学習者からも質問が出てくると、やり取りが活発になり、学習のためではない本物の対話になっていきます。

コラム「ボランティアも“わたし”らしく」



「朝ご飯だの誕生日だのって、苦手だなあ」と頭を抱え込む方も多いかと思います。日本語が覚えられない学習者に向けた話題はどうしても日々の生活のことに限られがちです。人の朝ご飯を尋ねるなんて、わざとらしいし、無意味だ、とお感じになるかもしれません。特に男性ボランティアには、ゴミの出し方や近所のスーパーのことなどをあまりご存じない方もいらっしゃるかもしれません。

ボランティアをするご本人が、あまりにも自分らしくない話題だとお感じであれば、日常些末な話題にこだわることはありません。とって、会社でしていたのと同じような雑談ではなかなか学習者に通じないでしょう。

そんなときは、ご自分の若いときからの趣味、あるいは趣味というほどではないけれど、それなりに得意なこと、「これはパパに頼もう」とご自宅で言われるようなこと…そんなことを思い出してみてもいいでしょうか。

「けさ、ベランダでトマトを摘みました」など、ちょっとしたことでいろいろな方面に広がります。「トマトは好きですか」でも「料理に使いますか」でも「自分で野菜を作ったことがありますか」でも…。

お仕事からみて法律に詳しいのであれば、「あなたの国では結婚したとき役所に届けますか」、「どんなことを届けますか、証人はいますか」「日曜日でも受け付けますか」など尋ねながら、日本ではこうですよ、と簡単に説明するのもよいでしょう。

税金やローンのことを知りたい学習者もいます。

ボランティアの自分らしさ、これまでの人生経験が活かされるのはとても大切なことです。

そして、もう一つ大切なことがあります。

しゃべりすぎないことです。

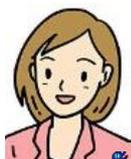
自分らしい文脈で話題が広げられることがわかると、ついつい話しすぎる人もおられますが、「過ぎたるは及ばざるがごとし」という言葉もあります。成功の秘訣は、言いたいことの半分くらいに留めることでしょうか。

4. 文法の扱い

この教材って、文法がほとんどないけど……。文法はやらなくてもいいの？
でも、それで日本語が上手になるのかな。



『つながる にほんご』は、文法文型を学ぶために構成された教材ではありません。
しかし、「文法はいらない」ということではありません。



『つながる にほんご』では、文法ルールを学習してから日本語を使おうとするのではなく、日本語を使いながら、必要な時に必要な文法文型などを学習してほしいと考えています。文法は場面との結びつきが大きいからです。
では、必要な時とは、いつでしょうか。

文法学習が必要な時①： **明らかに間違っていて、意味が伝わらないとき**

前に、京都に行くことがあります。

例

「前に、京都に行ったことがあります。」？
「時々、京都に行くことがあります。」？



●文型「～たことがある」の学習チャンス！！●

文法学習が必要な時②： **人間関係でマイナスになるとき**

先生、お茶、
飲みたい？

例
年上の人には、「です・ます」で丁寧に話します。年上の人に「～たいですか。」は、失礼なので、使いません。
だから、「先生、お茶を入れましょうか。／お茶はいかがですか。」といいます。



●敬語表現の学習チャンス！！●

学習者にそんなつもりはなくても、聞き手によくない印象を与える表現を使っている場合には、そうならない表現があることを伝えます。
ただし、わかっている、あえてその表現を選択している場合もあるので、最終的な判断は学習者の意思を尊重しましょう。



文法学習のチャンス： **学習者が「わからない（知らない）。なんだろう、それ？」と思ったとき**

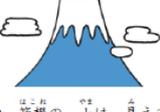
～ 4話 私の町 ～

1. あなたの町は？

(1) 海が見えるところはありますか？



(2) ふじ山が見えるところはありますか？



大山や 箱根の 山は 見えますか？

① はい、あります。
_____から 見えます。
② いいえ、ありません。

『つながる にほんご』 1.4話 私の町 (p14)

「見ます」「見えます」??
同じですか？

例

いいえ、違います。

例えば、これから雨が降るかどうか、知りたいです。(窓のそばに行って)「窓の外を見ます」今、窓のそばにいます。何が見えますか？

「コンビニが見えます」「たくさんのビルが見えます」「車の音が聞こえます」うるさいので、聞きたくないです。でも、「聞こえます」。



●「見る／見える」を学習するチャンス！！●

学習者に「知りたい」という気持ちがあるときは、学習のチャンスです。学習チャンスのアンテナをいつも張っておくと、機会を逃しません。

日本語だけで説明する場合、文法説明はできるだけ簡単にして、はっきりと違いがわかる例文を示します。例文は、学習者がメモしておけば、自宅学習する時の手がかりにもなります。



コラム「人間として、レベルアップできる日本語」

ミカさん(30歳代女性)：11年前に日本人と結婚、子どもがいる。



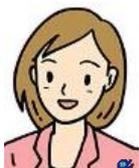
日本語が初級だったころ、難しいこともたくさん教わりました。「あなたは、これから妻として母として、日本で生きていくのだから、難しい日本語も覚えなきゃならない」と言われ、初級だったけど難しい日本語も教えてもらいました。でも、それがとても良かった。先生は「初級だから、これは教えなくていい」とは考えず、私の状況（子供がいて、保育園に行っている）から、保育園への電話のかけ方やお便り帳の書き方を教えてくれ、その時、「いつもお世話になっています」という挨拶も教わりました。その後、たまたま、スーパーで店員さんの電話対応が聞こえ、このフレーズが聞き取れた時はすごく嬉しかったですね。すぐ自分でも使ってみると「ミカさんの日本語はきれいですね」とほめられ、海の上を歩いているような、嬉しい気持ちになりました。

初めは「こんにちは。〇〇ちゃんのママです。」だけで、子どもみたいな日本語だったけど、初級でも、一言でもきれいに話せると、人間としてレベルアップしてみえますね。

母国では自然を感じるのが大好きだったのに、日本に来たばかりのころは、空や木の緑なんかどうでもいいと感じました。「景色は心の食べ物」だけど、毎日をこなすのが精一杯の時は、病院や安いスーパー、近隣イベントなど、生活情報の方が知りたいです。花の名前より、生活で使える言葉の使い方を教えて欲しいと思いました。

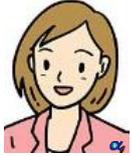
日本語初級の学習者でも、生活に必要な日本語は初級の範囲に限られません。日本語初級者でも、自分にとって必要なことは覚えたいでしょうし、必要性があるからこそ難しくても覚えられます。その人らしく生きていくために必要なことだったら、日本語レベルに関係なく、学習する機会を作りましょう。

日本社会で生活している学習者は、それぞれに必要な日本語が異なり、それは教科書の範囲とは違います。だからこそ、日々の活動のやり取りの中で、目の前の〇〇さんの必要なもの、欲しているものに心を傾けることが大事なのではないでしょうか。



IV. 活動案／実践例

1. 活動案とは



活動案は、頭の中でも十分かもしれません。しかし、目的のある活動（文法文型習得や対話など）をするなら、そのために必要な日本語を整理したり、進め方を考えたりするために、活動案を書くといいでしょう。

もちろん、学校の授業の教案のように分刻みで作る必要はありません。日本語教室は学校のようなカリキュラムに縛られることがない上、学習者やその場の流れに合わせて活動がどんどん変わっていくからです。しかしどんなに初めの計画と変わっても、事前にどんなことをしようかと考えるのは大切なことです。

活動案の目的は様々ですが、その目的によって活動案の内容も変わってきます。

◆活動案の目的

- ① 自分のメモ〔活動前〕
- ② 仲間との共有〔活動前〕
*当日の活動をサポートするボランティア仲間と事前に活動内容を共有するためのもので、活動目的や手順が大切になります。
- ③ 活動をふりかえる／情報共有／記録〔活動後〕
*通常「活動（学習）報告」、「活動（学習）記録」などと呼ばれます。
次の活動へつなげるために、活動手順よりも振り返りが大切です。



「①自分のメモ」だったら、すでに自分の頭の中にある活動目的や学習者の情報は省き、活動手順だけでもいいでしょう。しかし、「②仲間との共有」が目的なら、活動をサポートしてくれる仲間のボランティアには、活動目的や意図、初対面かもしれない学習者の背景なども事前に伝えておく必要があるかもしれません。

では、活動案の例を見てみましょう。



次の活動事例1は、日本語初級学習者向けの活動（30分）です。
「①自分のメモ」のための活動案ですが、この量だったら、覚えていられるかもしれないですね。しかし、頭の中から1度書き出して客観的に考えてみると、足りないものがみつかったり、新しいアイデアが浮かんだりすることもあります。

活動事例1

6/21(土)「子どもの ようす」

準備：『つながる にほんご』p57 使いやすい絵を5枚→拡大コピー
白紙、マーカー



- ①絵を見せて「この子は何をしていますか」
- ②学習者の言葉を拾って紙に書き、卓上にならべる。
- ③「〇〇ちゃんは～しましたか？」
(例：「何分くらい泣きましたか」、「何が好きですか」など。)
- ④まとめ(10分)：「大変なことは何でしたか」
+α「うれしかったことは何ですか」

~~~~~  
表現：夜泣き、遊び食い（こぼす、手づかみ）、落書き、いたずら、つかまりだち、ぐずる、  
怒る、かんしゃく、シャンプー  
一人で～する  
文型：「～ことです」





次の例2も例1と同じ活動のものです。これは「③情報共有」のためのものなので、活動報告も兼ねています。

準備するもの、事前学習、使用文型、活動内容などは、あらかじめ流れを予想して、おおまかなところを事前に記入して活動にのぞみ、事後に「振り返り」などを記入しました。振り返りの部分は、次の活動に向けての重要な情報となりますから、仲間と共有する場合は丁寧に書きます。

### 活動事例2

| 4-3 子どもの ようす① (『つながる にほんご』 p57)                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|---------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 活動の意味づけ                                                       | 活動のねらい<br>子どもの様子を語る表現を覚える。<br>それぞれの子どもを話す。                                                                                                                                                                                                                                                              |
|                                                               | 学習者<br>4名(中国:妊娠中、フィリピン、タイ:小学生の子どもがいる、カナダ:子どもなし) 初級~初中級                                                                                                                                                                                                                                                  |
|                                                               | 準備<br>テキストから使いやすい絵を5枚選び、拡大コピー。ハガキサイズのカードに貼る。白紙、マーカー                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 既に知っている表現等を活用。                                                | 時間<br>30分(活動前半)                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|                                                               | 表現<br>夜泣き、遊び食い(こぼす、手づかみ)、落書き、いたずら、つかまりだち、ぐずる、怒る、かんしゃく、シャンプー、一人で~する<br>文型:「~ことです」                                                                                                                                                                                                                        |
| 手順を整理しておく。                                                    | 手順<br>①絵を見せながら、「この子は何をしていますか」と尋ねる。<br>②学習者のつぶやきから、言葉を拾って紙に書き、卓上にならべる。<br>③「〇〇ちゃんは~しましたか?」と順番に尋ねる。答えによって、ほめたり質問を追加したりする。(例:「何分くらい泣きましたか」、「何が好きですか」など。)このとき、自分の子の話がどんどん出てきたら、それに応じて必要な言葉も学習に加える。<br>④まとめ(10分):学習者に「大変なことは何でしたか」を聞き、時間があれば「うれしかったことは何ですか」を聞く。                                              |
| 今回なぜそうしたのか、失敗や成功なども含め、振り返る。反省点は、どうしたらよかったかまで考えておくと、次の改善につながる。 | 振り返り<br>・子どもの有無にかかわらず、どの人も表現を熱心にメモしていた。黒板でなく、紙に書いて並べる方法が成功。<br>・夜中に子どもを抱いてあやすことの是非で盛り上がった。<br>・現役の赤ちゃんママがいないので、育児論のほうに流れた。そのため子どものいないカナダの人も参加しやすくなった。<br>・シャンプーハットは実物を見せたかった。<br>・絵に焦点をあてて見せたかったので、テキストをそのまま見せるのではなく絵カードにしたが、全員が集中できてよかった。<br>・妊娠中の〇〇さんが母子手帳にメモしていた。母子手帳の使い方がわからないとのことだったので、近々個別にやるとよい。 |
| 学習者の個別の様子も書いておくと、次の活動に生かせる。                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

## 2. 地域での活動例

これから『つながる にほんご』を使った様々な活動例をご紹介します。活動例の中には、活動計画段階の「活動案」と、活動のふりかえりを含む「活動報告／活動記録」がありますが、「活動報告／活動記録」は「実践例」としてご紹介します。

これから取り上げる活動案や実践例は、実際に日本語教室で計画・実践されたもので、皆さんに活動の様子がよくわかるよう、詳細に書かかれたものを載せています。他のボランティアが、どんな意図で、どんな活動計画を立てて実践し、その結果どうだったのか、を読み取って、みなさんの活動の参考にさせていただければと思います。



なお、活動例には、活動案の他に活動で使ったプリントも載せました。掲載にあたり、学習者に配布するプリントを「活動シート」（活動の説明や語彙整理等に用いるもの）と「ワークシート」（実際に学習者が書き込む活動をするもの）に区分し、左肩に活動シート、ワークシートと明示しました。

また、活動案等は、元の形をできるだけ尊重したいと考えたため、形式や表現などは統一していません。また、人名等の固有名詞は伏せてあります。

### （1）はじめてのインタビュー活動「ふるさととは〇×です」〈実践例〉

『つながる にほんご』本冊 p9-10

『つながる にほんご』の冒頭「1 話 世界の中で」（p9）では、学習者が母国から日本に来て、神奈川県内の市町村で暮らし始め、住んでいる地域を意識する活動ができます。

以下は、日本語入門学習者のクラスの2回目の活動で、1回目は自己紹介表現を学び、この日は、教室ボランティアではない日本人（補助者）に来てもらい、インタビュー活動をしたそうです。



はじめてのインタビュー活動「ふるさとは〇×です」



| 「ふるさとは〇×です」(日本語入門レベル) |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 所要時間                  | 20分(うち発表5分)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 活動のねらい                | 日本語の音に慣れる。<br>補助者として入る母語話者(日本人)に日本語を使い、日本人とのやりとりに慣れる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 対象学習者                 | 自己紹介を覚えた程度の日本語入門期の人 5名<br>(ドイツ、ルーマニア、アメリカ、カナダ、ペルー)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 準備するもの                | 聞き取り用ワークシート(学習者1人あたり3~4枚)、筆記具、クリップボード<br>『つながる にほんご』p9-10(A3に拡大コピー:学習者人数分)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 事前学習                  | 「〇〇(名前)です」、「××人です」<br>「ふるさとは〇×です」(〇×は母国名、または州、省、都市名)<br>「お名前は?」、「ふるさとは?」など「(名詞)は?」の質問のしかた。<br>自己紹介時に地図を用いて、指さしの「ここです」を教える。                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 使用する文例                | ①「私は〇〇です。」<br>②「××人です。」<br>③「××はここです」(地図で国を指す。)ふるさとは「〇×です」<br>④「お名前は?」<br>⑤「△〇さん、ふるさとは?」<br>⑥「△〇さんです。ふるさとは〇×県です。」                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 活動                    | 1. 学習者と補助者のペアをつくる。<br>2. p9の地図を手に学習者が自己紹介(①、②、③)<br>3. 学習者がペアの補助者に④の質問をする。<br>4. 補助者にはあらかじめ名詞文でシンプルに答えるよう指示をしておく。学習者は答を聞いたなら、ワークシートに書く。書ければひらがな、難しければ、適宜母語で聞いた音を書き記す。(補助者の名前、ふるさと)<br>5. ⑤の質問をするときに、④で聞いた名前呼びかける。<br>6. 答える人は、p10の地図をもって指さしながら「〇×県です。ここです。」とふるさとを答える(県名)。<br>7. 学習者は名前を書き留め、ワークシート上の当該場所にマークをする。<br>8. 3、4名の補助者に対して1~5を繰り返す。(ここまで15分)<br>9. 終了後、学習者はメモを見ながら、自分が聞き取った相手を⑥のようにみんなに紹介する。紹介する人数は時間と補助者の数次第。 |



入門期は、身振り手振りを交えたコミュニケーションが有効!

教室活動のお手伝いをする方を「補助者」としています。

名前を呼び合うのは、親しくなるためのテクニック!

|                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|----------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>振り返り</p> <p>クリップボードが、インタビュー感を演出。こういう演出も活動を盛り上げる大事な工夫です。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>日本語もゼロに近い学習者たちであったが、インタビュアーという自分たちの位置づけが理解できたためか、とても盛り上がった。クリップボードも効果発揮。</li> <li>日本人配偶者を持つ学習者が「初めて知らない日本人に自分で質問できた」といっていたのが印象に残った。必要な情報は配偶者経由で獲得するのが日常なのだろう。</li> <li>文字については、書けるところだけでよいと伝えてあったが、学習者はかなり意欲的に頑張った。しかしこれに予想外に時間をとられた。</li> <li>発表は1人が1、2名の日本人（補助者）を紹介する形になった。発表ペアの決定にも時間をとられ、順番に名前と故郷をあわただしく発表するだけになり残念だった。</li> <li>別途大きい日本地図を壁に貼ってシールでもつければよかった。学習者がアルファベットで書き取ったものは、学習者の耳に、ある「音」がどのように聞こえたかを知ることができ興味深かった。[例：Myani-Ken (=宮城県)]</li> <li>事前の指示とは違うが、補助者の答が名詞文の一言で終わらないのが、自然でよかった。ほとんどの人が何かしら付け加えるので、後半は日本語と英語のちゃんぽんになりがち。（「ふるさととは神戸です。港があります。」「ミナト?」「port」「I see」・・・）英語交じりでもコミュニケーションがしたいためなら、信頼構築のためによいと思った。ただ日本語にせよ英語にせよ、日本語入門期の学習者に配慮したコントロールは必要。</li> <li>補助者（日本人）が日本語入門者とどう話したら通じやすいか、を意識するきっかけとなったと思う。</li> <li>「ふるさと」にしたのは、回答のバリエーションをつけたかったこと、また場合によっては知っている地名（東京、京都など）が出ることを期待したから。住んでいる地域の地図を使えば、「家は？」の問いでいろいろな答が期待でき、地域の学習にもなるのでよいと思う。</li> <li>何を聞くのか、自分でしっかり確認できるように聞き取りワークシートに英訳を付けた。（日本語ゼロという人が2名おり、学習者全員が英語を理解できたため。）</li> </ul> |
| <p>その他応用</p>                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>聞き取り練習だと考えれば、電話番号や誕生日を聞いて回るのもよい。</li> <li>語彙が増えれば、仕事、趣味などの項目を加えることができる。</li> <li>家族の呼び方を学んだ学習者には家族（数、構成）の情報の聞き取りを取り上げると親しさが増すのではないか。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |



ワークシート

なまえ  
interviewer's name

|        |                    |  |
|--------|--------------------|--|
| (お)なまえ | interviewee's name |  |
|--------|--------------------|--|

|      |                    |  |
|------|--------------------|--|
| ふるさと | his/her birthplace |  |
|------|--------------------|--|

|        |                                                                                                             |  |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| ちずの どこ | <p>place on the map</p>  |  |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|

|      |                               |  |
|------|-------------------------------|--|
| かんそう | your impressions and thoughts |  |
|------|-------------------------------|--|

## (2) 地域と親しむ「街角オリエンテーリング」〈活動案〉

『つながる にほんご』本冊 p15,77



いつもの街を生活日本語の学びの場にしたら、地域はぐっと近づきます。商店街は文字の力試しにぴったり。学習者は、普段「なんだろうな」と思っていたものを知るチャンスです。そして、ボランティア自身も街を見直すと、驚くものがいっぱい発見できます。

\*\*\*\*\*

### 「地域と親しむ 街角オリエンテーリング」



入念な街の下調べはしなくてもOK! してしまうと、逆に全部教えたくなくなってしまいます。聞かれる前から教えようと思わず、自然な会話が楽しめるといいですね。

|     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                        |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|
| 目的  | 「体験の共有」：街角のものを学習者と支援者がともに発見し、「なんだろうね」を共有する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                        |
| 参加者 | 学習者5人、ボランティア6人                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                        |
| 準備  | オリエンテーリングのルートを考え、街に答えがあるクイズを5つくらい作り、ワークシート化しておく。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                        |
| 活動  | <p>①街のイラスト（『つながる にほんご』p77）を見ながら「これは何の店ですか」、「〇〇さんの家の近くにありますか」、「ふるさとには？」などを話す。</p> <p>②町の地図（〇〇町散策マップなど）を見ながら、オリエンテーリングのルート上にあるものを中心に話す。</p> <p>③オリエンテーリングのワークシートを見て、クイズの意味を確認する。</p> <p>④オリエンテーリングに出発（30分）</p> <p>⑤街を歩きながら、クイズの答えを探し、シートに答えを書いていく。<br/>（クイズにこだわりすぎず、散策しながらの会話を楽しむ）</p> <p>⑥教室に戻ったら、クイズの答え合わせをする。</p> <p>*途中で見かける動物や植物があれば、「故郷にもいますか。〇〇語で何ていいますか。」など、聞く。</p> | <p>・『つながる にほんご』p15,77</p> <p>・街の地図</p> |

学習者がボランティアに教える状況を自然に作り出すことで、いつもの「教えるー教えられる」役割が逆転!

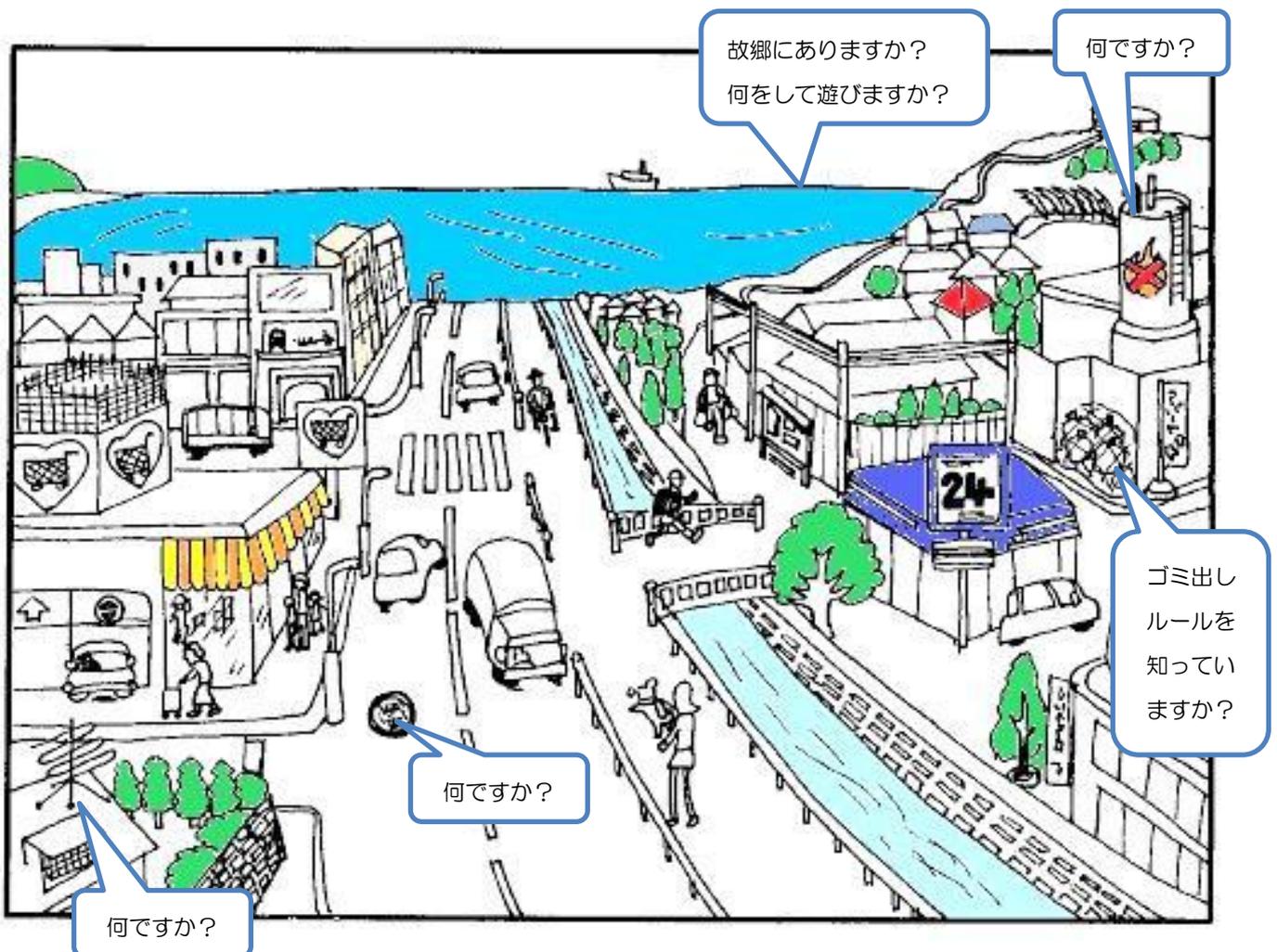


教室の外で、ボランティアと学習者が新しいことを一緒に見つける「体験の共有」がしたいと思い、この活動を計画しました。

ワークシートには、実際の街を歩きながら、日本語の学習になるようなものを拾ってみました。コースは簡略化して書いていますが、普通に歩けば30分ぐらいです。

活動シート

『つながる にほんご』本冊 p77



スタート

まち かと  
街 角 オリエンテーリング



①橋の <sup>はし</sup> 名前は <sup>なまえ</sup> 何ですか？ <sup>なん</sup>

\_\_\_\_\_



さが くだ  
➤探して下さい♪  
これは何ですか？  
はな  
お花は、だれが？



②川の <sup>かわ</sup> 名前は <sup>なまえ</sup> 何ですか？ <sup>なん</sup>

\_\_\_\_\_



③木の <sup>き</sup> 名前を <sup>なまえ</sup> ひらがなで  
かいてください。

- \_\_\_\_\_
- \_\_\_\_\_

⑤橋の <sup>はし</sup> 名前は <sup>なまえ</sup> 何ですか？ <sup>なん</sup>

\_\_\_\_\_

④故郷 <sup>ふるさと</sup> にもいますか？  
〇〇語 <sup>ことば</sup> でどういいますか？

\_\_\_\_\_



⑩ 駐車料金は  
いくらですか？



⑨ これは何でしょう？

ゴール

かわいい！



⑧ 野菜の名前を3つ！



ニャア (= 'x '=)



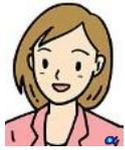
やおやさん！

⑥ 何のためですか？

⑦ 何のお店ですか？



ここから  
しょうてんがい  
商店街♪



いつも歩いている街でも、視点を変えれば新しい発見があります。それは、人でも教室でも同じかもしれません。

学ぶことがすでに準備されていることが多い教室から一歩外に出てみると、視点が少し変わり、自然なやりとりの中からいつもの教室活動とは違う顔が見えたりします。ボランティアも学習者もみんなでおしゃべりをしながら歩きましょう。

教室へ戻ってから、コースの途中で読んだ看板や目にしたものを振り返ると、言葉の定着につながります。その際、写真があると教室での振り返りがしやすいので、歩きながら携帯やデジカメで撮っておくといいですね。

イベントなどの場合は、競争の要素を入れてもいいでしょう。学習者主体の2、3名のチームを作り、コースや途中のチェックポイント（課題を出す場所）を示した地図を渡します。学習者はそれを見ながら歩きます。早くゴールインしたチームが勝ちです。チェックポイントではボランティアがあらかじめ待機していて、その場にあった日本語の問題を出します。もちろん道に迷わない配慮も必要です。

街角には本当にいろいろなものがあります。これらも、活動に活かせます。



市町村が作成した地域のパンフレットや小学生の社会科の副読本（市町村別）には、街角オリエンテーリングはもちろん、他にも日本語教室で使えるようなアイデアがたくさん見つかります。本格的な郷土史の本より簡単な冊子がお勧めです。

(3)「お出かけ計画」学習者主導の活動へつなげる〈活動案〉

『つながる にほんご』本冊 p14-15

\*\*\*\*\*

お出かけ計画①「好きなところインタビュー」

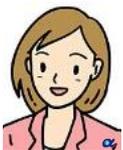
活動目的： 自分たちで外出を計画して実行する（初級3クラス合同授業）



活動目標：① 自分の家の周りや、横浜について紹介する

② 自分の知らない横浜について情報を得て、皆で出かける計画を立てる

| 時間          | 内容                                                                                                                                                         | 準備                           |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
| 00:00       | ホワイトボードに、来た順に名前、国名、町名を書く。                                                                                                                                  |                              |
| 00:05       | ボランティアが先に home town を紹介し、1人ずつ自分の home town について話す。                                                                                                         | 先にボランティアがモデルを示すとわかりやすく Good! |
| 00:15       | 自宅や教室から見えるものを話した後、市内のどこから横浜ランドマークが見えるか話す。(質問があれば、「見ます/見えます」の違いを説明)<br>①「部屋から何が見えますか?/ここ(教室)から何が見えますか?」<br>②「みなとみらいの夜景はどこから見えますか?」<br>→『つながる にほんご』p14-15 使用 |                              |
| 00:30       | 2人1組になり、日本人(ボランティア)に横浜の好きなところをインタビューし、それぞれの好きな所を、ワークシートを使って聞く(名称、アクセス、料金、何が出来るか...)。                                                                       | ・『つながる にほんご』p14-15           |
| 00:45       | インタビュー後、学習者がホワイトボードに、聞いた場所の名称を記入、発表。その中から、課外活動日(お出かけ)の行き先やスケジュールを決める(集合場所、時間など)。                                                                           |                              |
| 00:60<br>終了 | 宿題：他クラスの学習者を誘うための簡単なちらしづくり<br>* 2回目：他クラスの学習者を、お出かけ活動に誘う<br>* 3回目：実際に出かける                                                                                   | 次の学習への橋渡し!                   |



普段は日本語レベル別のグループで学習をしている教室ですが、レベルを越え、他グループを誘って出かける活動は、とてもいいですね。同じ教室に通っていても、活動グループが違えば、意外に知り合えないものです。

ここで紹介しているのは「お出かけ計画」の1回目だけですが、この教室は3回目にビール工場へ出かけたそうです。そしてその後、紅葉狩りやクリスマス会など、学習者主導の活動が増えたそうです。

(4)「健康」テーマを積み重ねたシニアのための日本語活動〈実践例〉 『つながる にほんご』本冊 p39-42,47-49



日本語初級の60歳代の学習者が多い教室です。  
どんな活動がいいのでしょうか。

\*\*\*\*\*



病院通いをされていて、健康に不安を抱えるシニア学習者が多いため、月に1回は生活習慣や病気のと  
きの対処法などをテーマに話すことにしました。また今回は、前週担当ボランティアから「七夕」  
を、学習者からは「生け花」をして欲しいとのリクエストがあったので、盛り込みましたが、少し詰  
め込みすぎた感じになってしまいました。

### 「けんこう①」

- 活動テーマ : ①健康〔教材『つながる にほんご』p39-42 使用〕 / ②季節行事「七夕」 / ③学習者リクエスト「生け花」  
学習者 : 4名 (日系ペルー、ラオス)  
活動目的 : ①「健康的生活の意識化へつなげる」  
②「知識を深め、日本社会につながる媒介とする」  
活動目標 : ① 生活習慣をチェックし、互いにアドバイスなどをしあい、健康的生活の意識化へつなげる  
② 子どもの頃に看病してもらった記憶を話し、看病してくれた人とのつながりを感じる  
③ 季節行事を知り、地域参加 (短冊を飾る) へつなげる ④生け花を少し知り、さらに興味を持つ



| 時間             | 内容                                                                                                                                                                                                  | 文型・文法・語彙                                                                                           | 準備物                                |
|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|
| 00:00<br>[30分] | 1. [生活習慣を話す] →『つながる にほんご』 p39-41 使用<br>(1) 「運動をしますか？／昨日の夜、何時間ねましたか？／今朝、何を食べましたか？」<br>(2) 健康チェック<br>(3) 「健康にいいこと (いつもします。元気です。しません。元気じゃありません。) 何かしていますか？私は、朝、コーヒーを飲みます。元気です。〇〇さんは？」<br>→ (3) は時間的に割愛 | ・毎日・よく・ときどき (頻度)<br>・「(1日・週)に (〇本・回)」<br>・けさ、ゆうべ、けんこう、うすい / こい、心配、いらいら、忙しい、疲れる<br>→意識的に扱ったのは「週に～回」 | ・『つながる にほんご』 p 39-42               |
| 00:30<br>[20分] | 2. [看病された経験を話す] →『つながる にほんご』 p42 使用<br>(1) 「子供の時。病気の時、お母さんは〇〇さんに何をしてくれましたか？<br>私のお母さんは、よく、リンゴをすってくれました。」<br>(2) 「〇〇さんは、子どもが病気の時、何をしてあげますか？」 → (2) は割愛<br>——休憩 10分——                                 | ・「～とき」<br>・「～てくれます」<br>・「～てあげます」<br>→「～とき」は既知なので扱わず                                                | この活動案は、活動後、簡単なコメントを加えた活動報告ですね。     |
| 01:00<br>[30分] | 3. [生け花を知る]<br>(1) 生け花とは<br>(2) 生け花の歴史<br>(3) 生け花の生け方<br>→リクエストしたAさんはしきりに頷いていた。Bさんも草花は好きな様子。しかし、やはり実際に生けたそうだった。生け花の心得がある人をお願いして、やってみることができればよかった。                                                   | 語彙リスト                                                                                              | スライド                               |
| 01:30<br>[30分] | 4. [七夕を知る]<br>(1) 平塚七夕まつり<br>(2) 七夕とは<br>(3) 短冊を読む<br>(4) 短冊を書いてみる。                                                                                                                                 | 語彙リスト                                                                                              | 短冊書きが楽しそう！                         |
| 02:00          | 作品を笹に付け、ロビーに飾る。<br>→日系ペルーの学習者のルーツである沖縄の七夕は、お墓参りが主らしく、短冊などはしないとか。初めは乗り気でない様子だったので短冊のみ書いてもらい、傍らで私が飾りを作っていたが、やってみたそうだったので、Aさんにも作ってもらった。最後にAさんは、自宅でもっと作りたいと、折り紙、笹、作り方メモ一式、おみやげに持って帰                     |                                                                                                    | スライド、<br>短冊・笹<br>折り紙<br>筆ペン<br>折り紙 |

\*\*\*\*\*

## 「けんこう②」



体調不良の言葉を習う機会が少ないと思い、2回目は、それを意識して取り上げました。生活習慣は先月に続き2回目ですが、忘れている人も多いので、復習も兼ねて行いました。単調にならないようにラジオ体操も入れました。

活動テーマ : 健康 [教材『つながる にほんご』 p 39-41 使用]

学習者 : 4名 (日系ペルー、ラオス)

活動目的 : 「健康的生活の意識化へつなげる」

活動目標 : ① 自分の体調などを伝えるのに必要な日本語を知る

② 日頃の生活を振り返り、健康的な生活の意識化へつなげる

③ ラジオ体操 (座位) をしてみることで、体操をする習慣や地域等で行われるラジオ体操参加への動機づけにつなげる



| 時間             | 内容                                                                                                                                                                           | 文型・文法・語彙                                                                                                                                                 | 準備物                                                                      |
|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 00:00<br>[60分] | <p>1. 生活習慣<br/>(1) [体調を伝える表現を知る]<br/>今日の体調: 「腰が痛い/だるい/しびれる」「トイレが近い」(耳が遠い)<br/>→活動シート①で</p> <p>→「頭、足、痛い」は知っていたが、それ以外は初めてで、体調の表現のバラエティを増やす必要がありそう。「(1日・週)に(○本・回)」はよくできていた。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体調</li> <li>・毎日・よく・ときどき (頻度)</li> <li>・「(1日・週)に(○本・回)」</li> <li>・けさ、ゆうべ、けんこう、うすい / こい、心配、いらいら、忙しい、疲れる</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動シート①</li> <li>・「体調」</li> </ul> |

|                |                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                          |                                               |
|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|
|                | <p>(2) [生活習慣を話す] →教材『つながる にほんご』 p39 使用<br/>「今週、運動をしましたか? / 昨日の夜、何時間ねましたか? / 今朝、何を食べましたか?」</p> <p>(2) [読んで、毎日の生活をチェックする (頻度表現学習)]<br/>→『つながる にほんご』 p40-41 (①~⑤⑦のみ)</p> <p>(3) [頻度表現を使って、文を書く] →ワークシートに<br/>生活の中でよくすることを、頻度表現を使って書く (例: 月に3回買い物をする) など)</p> |                                                                                                          | <p>・『つながる にほんご』 p39-41</p> <p>・ワークシート「習慣」</p> |
|                | <p>→頻度表現 (1日〇回) は (1) と同じなのに、話せても書くのは難しいようだった。</p>                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                          |                                               |
| 01:00          | ——休憩 10 分——                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                          |                                               |
| 01:10<br>[50分] | <p>3. ラジオ体操 (座位)</p> <p>(1) [ラジオ体操を知る] 「ラジオ体操を知っていますか。私の父は毎日するので元気です。」 →スライドで</p> <p>(2) [ラジオ体操を見る] →体操を実演して見せる</p> <p>(3) [体操の言葉を知る] →活動シート②で</p> <p>(4) [指示表現を聞いて動く] 簡単な指示表現を聞いて、体を動かしてみる (座位で)</p> <p>(5) [ラジオ体操実践] 全体を通して、指示に合わせて体操を試してみる</p>         | <p>・うで、あし、かた、からだ、いき、しんこきゅう、せのび、うんどう、そとがわ、うちがわ、ななめ、うえ、ぜんご</p> <p>・おおきい、ゆっくり、ふかい</p> <p>・まわす、ゆする、すう、はく</p> | <p>・スライド</p> <p>・活動シート②「体操の言葉」</p>            |
|                | <p>→時間がなくなり語彙学習などは少し駆け足になったが、体を動かしながらなので理解できたようだった。「ねじる」と言う動作が面白かった様子。</p>                                                                                                                                                                                |                                                                                                          |                                               |
| 02:00          | 終了                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                          |                                               |

## 「けんこう③」



健康関連のことを繰り返して取り上げることで、定着を図りました。単調にならないようスライドを併用して読解を進めたり、実際に視力検査を行ったりしました。

活動テーマ : 健康診断 [教材『つながる にほんご』p47-49 使用]

学習者 : 3名 (日系ペルー、ラオス)

活動目的 : 「健康的生活の意識化へつなげる」

活動目標 : ① 体調を伝える

② 健康的な食べ物の話をする

③ ラジオ体操 (座位) をしてみることで、体操をする習慣や地域等で行われるラジオ体操参加への動機づけにつなげる



| 時間             | 内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 文型・文法・語彙                                                                                                                                                      | 準備物                                                                |
|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 00:00<br>[60分] | <p>1. 健康</p> <p>(1) [体調を伝える表現を知る]<br/>今日の体調: 「腰が痛い/だるい/しびれる」「トイレが近い」(耳が遠い)<br/>→活動シート①で</p> <p>(2) [健康的な食べものについて話す]<br/>「好きな食べ物は何か?それは、体にいいですか?体にいい食べ物は?」</p> <p>(3) [大豆に関して知る: 読解]<br/>『よむよむ文庫②大豆』(レベル0)を読み、大豆の使い方を話す</p> <p>→豆腐の作り方に興味津々だったので、「豆乳+にがり」をレンジで3分加熱すれば作れると言うと、にがり購入方法を聞かれ、早速作ってみるとのこと。</p> | <p>・体調</p> <p>・毎日・よく・ときどき (頻度)</p> <p>・「(1日・週)に (〇本・回)」</p> <p>・「～は～からつくります」</p> <p>・つけます、砕きます、茹でます、混ぜます、すり潰します、待ちます、炒ります、蒸します、絞ります</p> <p>→料理用語は、興味がある様子</p> | <p>・活動シート①<br/>「体調」</p> <p>・『よむよむ文庫②大豆』(レベル0)</p> <p>・スライド「大豆」</p> |

|                |                                                                                            |                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                |
|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 01:00          | —休憩 10分—                                                                                   | 休憩中、電話番号の話から、互いの国の数字（1～10）を教え合うことに。みんな書き留めて、熱心に学び合っていた。                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                |
| 01:10<br>[50分] | <p>2. 健康診断</p> <p>(1) [健康診断の言葉を知る] →教材『つながる にほんご』 p47-49 使用</p> <p>(2) [視力検査を実際にやってみる]</p> | <p>→ゲーム感覚で楽しそうだった。眼鏡をかけた両目で、Aさんが0.8、Bさんが1.2、Cさんはお姉さんの眼鏡を使っていて度が合わず、0.4 だった。Aさんは「下、左」がなかなか覚えられず苦労していたが、単純な活動が楽しそうだった。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・乗って、入れて、押して、握って、押さえて、取って、止めて、開けて-下さい</li> <li>・上、下、右、左、わかりません</li> <li>・うで、あし、かた、からだ、いき、しんこきゅう、せのび、うんどう、そとがわ、うちがわ、ななめ、うえ、ぜんご、よこまげ、</li> <li>・おおきい、ゆっくり、ふかい、</li> <li>・まわす、ゆする、すう、はく</li> </ul> <p>→1ヶ月前に扱った言葉なので、復習してから行った。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・『つながる にほんご』 p47-49</li> <li>・視力検査表</li> <li>・活動シート② 「体操の言葉」</li> </ul> |
| 02:00          | 終了                                                                                         |                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                |

\*\*\*\*\*



料理用語に関心が集まるのは、それが学習者自身の「できること」と密接につながるからではないでしょうか。学習者の方は日本語が苦手なだけで立派な成人なのだとすることを、いつも心に留めておきたいですね。

● きょう 今日 の たいちょう 体調 ●

たいちょう = Condición (西) / Condição (葡) / อาการ (泰)

「きょう の たいちょうは どうですか？」



◆ きょうは たいちょうが いいです。

◆ きょうは たいちょうが わるいです。



① こしが いたい です。

② だるい です。



③ てが しびれます。

④ ひりひりします。



しゅうかん  
● 習慣 ●



「よく することは なんですか？」

◆さんぽ を します。

→ どのくらい？ → <sup>しゅう</sup>週に 4かい

「<sup>しゅう</sup>週に 4かい さんぽ を します。」

◆<sup>こ</sup>コー<sup>ひ</sup>ヒー を のみます。

→ どのくらい？ → <sup>にち</sup>1日に 2かい

「<sup>にち</sup>1日に 2かい <sup>こ</sup>コー<sup>ひ</sup>ヒー を のみます。」



わたしは \_\_\_\_\_ に \_\_\_\_\_。

わたしは \_\_\_\_\_ に \_\_\_\_\_。

# 『たいそう の ことば』

うんどう / せのび

うで / あし / からだ



そとがわ / うちがわ

ななめ / うえ / ぜんご

おおきく / ふかく / ゆっくり

まわします / まげます

ねじります / ゆすります

すいます / はきます

しんこきゅう / いき





民間療法といっても、大げさに構える必要はありません。人であれば誰でもあるような体の変化に対して、あなたの文化ではどう対応しますか、という話題です。風邪をひいたとき何を食べるか、家にアロエの鉢がある、といったことでも、夜泣きをする子へのおまじないでもOKです。

いたいの、いたいの、  
とんでけ～

\*\*\*\*\*



以前このテーマを取り上げたとき、テキスト通りストレートに「熱があるとき、どうしますか」などと尋ねたせいか、「病院へ行きます」、「薬を飲みます」と、みんな同じ答えになってしまいました。伝統的な療法はないのかな、と思うほどでした。

その後、インドシナ半島の人々にはコインで体を擦る健康法があると聞いたため、数か月後、もう一度、同じグループに対してこの話題を取り上げました。

### 「民間療法」



|              |                                                                                                                                                                                                                       |        |      |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|------|
| 対象者と<br>教室形態 | 4名（ペルー3名、カンボジア1名）<br>グループ                                                                                                                                                                                             |        |      |
| 時間           | 10分程度                                                                                                                                                                                                                 | 用意するもの | 10円玉 |
| 目的           | Aさんの発話と、その後の対話活動への誘導。                                                                                                                                                                                                 |        |      |
| 手順           | <p>挨拶のあと、最近、疲労感がある、肩こりがひどいことを話す。</p> <p>10円玉を持って、カンボジア出身のAさんに「Aさんの国では、こういうものを使いますか」と水を向ける。</p> <p>Aさんがそれを受けたら、「どうやってしますか」、「何のときしますか」と聞く。</p> <p>「Aさんの国ではこうします。日本ではしません。みなさんの国ではどうですか」と、ペルーの人たちにもそれぞれのやり方がないか、尋ねる。</p> |        |      |

ジェスチャーを交  
えながら話すと、わ  
かってもらえます。

|                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 文型等                                                                                                                                                                                                                                                         | 「〇〇のとき、〇〇します」                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| <p data-bbox="130 250 347 571">ふりかえり</p> <div data-bbox="146 577 300 698" style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> <p>コインで<br/>擦る様子</p> </div>  | <p data-bbox="354 250 1457 376">Aさんは、10円玉を見せて尋ねたらすぐに、「使うよ、してあげる」と鞆から小瓶（マッサージオイル入り）を取り出し、私の首筋にオイルをたらして、コインで擦ってくれた。（オイルを携帯していることにビックリ！）</p> <p data-bbox="354 385 1457 571">ペルーの人たちも驚きながら、「私も肩こりがある」、「腰が痛い」などと言い、Aさんは「腰痛い、頭痛い、何でも効くよ」と言って、各人の腕を擦り、擦る強さを伝えた。ペルー人たちからは、山のほうの人は疲れたら特別な木の葉っぱを噛む、などと話してくれた。</p> <p data-bbox="354 580 1457 667">モグサでお灸をする話を出したら、お父さんがそうしていたと話す人も出て、最後は現在薬局で売っている肩こり用の磁気絆創膏のことなどの情報交換となった。</p> <p data-bbox="354 676 1457 763">その後、文型でまとめて終わり。（それまでに繰り返し「〇〇のとき、〇〇します」の文型を使用）</p> <p data-bbox="354 817 1457 904">Aさんの積極的な反応のおかげで、共通語が日本語しかない環境がよく生かせ、話が盛り上がった。かつ、学習者にとって現実的に役立つ意味のある内容となったと思う。</p> |

こんなことも体験しました。

あるとき、私の足の甲に成人男性の親指大の盛り上がりがありました。痛くもかゆくもないけれど、異様な盛り上がりでした。お医者さんは「特段悪いものでもなさそうだから、当分様子を見よう」とおっしゃるだけでした。まだサンダルには早い時期でしたが、サンダルしか履けず、日本語教室にもサンダル履きでいきました。学習者は中国人のQさんです。

「こんなに寒いのにサンダルしか履けないのよ」と、足の話をしました。

Qさんは「痛いですか」、「赤いですか」と私に聞き、「中国人は足だけお湯に入れます」と足湯を教えてくださいました。「(すりおろす真似をしながら)生姜いれます。大きい生姜、割って1個(ひとかけ)。毎日します。」その晩から即、実行。そのせいかどうかはわかりませんが、一か月ほどしたら盛り上がりはだんだん小さくなりました。「Qさん、消えましたよ」と足を見せて、二人で手を取って大喜びしました。



\*\*\*\*\*

学習者から、いろいろな知恵をいただいているようですね。

学習者の皆さんにとって、人の役に立てたという実感は、次に進む自信につながります。学習者の持つ経験や知識が生かせる機会を作り出しましょう。



◆民間信仰◆

右の写真は横浜市内の「いぼとり地蔵」です。いぼを石で擦って、その石をお供えすると、いぼが消えるという言い伝えがあります。学習者に紹介すると喜ばれるでしょう。

あなたの街にもきっと何かありますよ。



## コラム「“先生”ですか、それとも…」



先生という呼び方は上下関係だから、と、教室内では「先生」を使わず、ボランティアを「〇〇さん」と呼ばせる教室が増えました。「〇〇さん」に比べ、「先生」はどのボランティアに対してでも使え、個人の名前を憶えないで済む便利な言葉です。もちろんみなさんは「その便利さはダメ、知りあうにはまず名前よ」とおっしゃるでしょう。

その通りなのですが、10年以上も続いているような教室ですと、「先生」の呼称が定着しきっている場合もあります。「いいのかな？」と首をかしげておられる方もいらっしゃるかもしれませんね。

しかし、呼び方より、「教室で出会って、知り合い、徐々に人と人の温かいつながりを結んでいくこと」がずっと大切です。「センセーは愛称なんだから（もう変えられない）」と、学習者から「〇〇さん」呼びを拒否された「先生」もいらっしゃいますから。



この「どんな子ども」という話題は、自分はどんな子だった、ということ  
を語りあうことで、子どもの状態を述べる表現を学び、次に、今育てている  
自分の子どもを語ってみる、そして「ママ友」や近所の人と子育てについて  
の話ができる力につなげよう、という意図で考えたものです。

子育ての仲間が持てれば、あるいは、専門家の知恵を借りることができれ  
ば、外国につながるママたちはどれほど安心でしょうか、育児に悩むとき「う  
ちもよ」の一言でどれほど気持ちが楽になるでしょうか。教室に育児の話題  
が必要な人はそう多くはないかもしれませんが、でも、もし一人でもいるなら、  
ぜひ手助けをしてほしいと思います。『つながる にほんご』「4.1話 どん  
なこども」(p53)は、その糸口です。

\*\*\*\*\*



学習者は、非漢字圏の女性4名です。新しい学習者も早く  
グループに馴染んで欲しいし、子どもの話題でおしゃべりが  
進んだらいいと思い、この活動を計画しました。



### 「どんな子ども」

|     |                                                                                                                                                                            |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 時間  | 30分                                                                                                                                                                        |
| 学習者 | Aさん：子ども2名（幼児と小学生）、Bさん：子ども1名（幼児） <u>新規参加</u><br>Cさん：子どもは成人、Dさん：子どもはいない                                                                                                      |
| 目標  | 子どもを語る表現の確認。い形容詞、な形容詞の区別を復習。<br>新規加入のBさんを仲間に取り込む。<br>Aさん、Bさんの子育ての話題で結び、『つながる にほんご』2話（p54）以降の話題<br>にすすむ素地をつくる。Cさん、Dさんも話題には加わられるはず。                                          |
| 手順  | ボランティアが自分の子ども時代を語る。<br>「やんちゃ、元気」<br>学習者に「どんな子どもでしたか」と尋ねる。<br>形容詞の一語でなく、様子や思い出を長く語る学習者には、適宜、内容に適した形容詞<br>を出して、あいづちを打つ。「〇〇さんはおとなしい子どもだったんですね」（まとめで<br>使用するので、対話中に扱った形容詞をメモ。） |

|              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|              | <p>学習者自身の子ども時代が一巡したら、Aさん、Bさんの子どもの話題に移る。<br/> 「何歳ですか、お名前は？男の子ですか、女の子ですか、保育園ですか、<br/> どこの小学校ですか・・・」</p> <p>話の中で「どんな子」が出ていなければ、水を向ける。<br/> 親の話も含め、出てきた形容詞を整理して、2種（い形容詞／な形容詞）にわけて板書、<br/> 言い切りと名詞修飾で復習。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| <p>ふりかえり</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動開始時に、小さい子がいるAさん、Bさんはまだ来ておらず、不安だったが、遅刻だろうと考えてこの話題で始めた。結局最後まで来なかった。</li> <li>・「どんな子どもだったか」という話題は大人だけでも有効だった。体が弱かったというCさん。学校へはあまり行けなかったそうだ。</li> <li>・私の弟が病弱で家庭の行事が中止になりがちだったことを伝えると、病弱であることに関わる事柄が話し合われたので、下痢・嘔吐・発熱といった病状についての語彙を多く取り上げた。（『つながる にほんご』p59の便の図も使用）</li> <li>・Dさんは、「学校へ行かない子もいたが、自分は学校が大好きで、いつも来ない人の家へ呼びにいった」等の発言があった。Cさんが学校へ行けないということへの対抗意識が若干見え隠れしたが、学ぶことの誇りが感じられた。</li> <li>・子どもを表現する言葉については、予定したようには進まなかった。「Cさんは体が弱い子どもでした」、「Dさんは学校が好きな子どもでした」と、かろうじて、い形容詞とな形容詞を対比して復習ができた程度。</li> <li>・下痢や嘔吐は、恥ずかしくて今の自分のこととしては言いにくい事柄だが、子どもの頃という前提でなら、比較的取り上げやすい。もちろん成人にも必要な語彙なので、学習できてよかった。</li> </ul> |



今回は、当初予定していた人が来なかったせいもあり、計画した通りには進められず、イメージしていた活動と内容がずれてしまいました。でも、その代り「吐く、(お腹が)ゆるい」など、意図しない語彙を学習するいい機会になりました。

\*\*\*\*\*



活動案通りに進行できなくなったとき、その時々「状況」で何が学べるかを察知して、調整することが大切です。

(7) 「小学生のころ」 教室丸ごとで活動しよう 〈活動案〉 『つながる にほんご』 本冊 p68-69



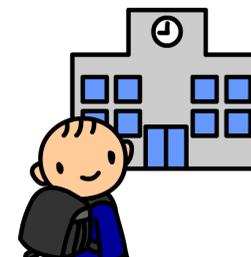
この教室は、大学内で行われている日本語教室で、主担当ボランティアが提示するテーマについてグループに分かれて日本語で話す活動に特化した教室です。日本人も外国人も、大人も子ども（小学生以上）も、いつでも参加OKなので、毎回飛び入り参加者が多く、日本語レベルも初級～日本語母語話者まで様々だそうです。（日本人も外国人と同等に活動に参加するため、この教室では日本人も含めて全員を「参加者」としています。）

日本語初級者はサブボランティアが補助するそうですが、参加者同士でもサポートしあえるよう工夫しているため、参加者同士の仲も深まり、個々のつながりもできているそうです。

日本語力や年齢などが異なる人々が同じ活動と一緒にしている点が珍しいですね。

\*\*\*\*\*

「小学生のころ」



主担当ボランティア：X / サブボランティア：P、Q、R、S（以下、主担当、サブと略記）

参加者： 20人（中国、韓国、日本、アイルランド、タイ他）＋主担当とサブ4人

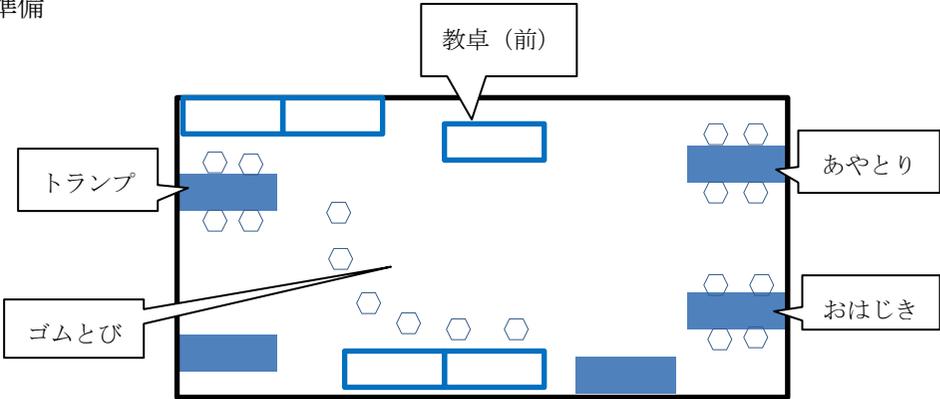
活動目的：個人の経験や想いを他の参加者と共有する中で自分をふりかえり、そこで考えたことを自分の日常へとつなげる

活動目標：① 子どもの頃を思い出し、今はどう変わったか再確認する中で、自分の成長や変容を感じる。（個々に感じる程度でOK）

② 地域や世代による、子ども・学校文化などの違いを感じる。（違いを知る中で、外国につながる子どもたちの感じる違和感に気づく）

\*個人的な話をしたくない人には、一般論としての出身地域の子どもの遊び、学校行事などにとどめてもかまわない

| 時間   | 内容                                                             | スタッフ | 準備物     |
|------|----------------------------------------------------------------|------|---------|
| 1時間前 | 主担当、サブ順次集合（3号館 718 教室）<br>活動準備 ①お茶 ②お知らせポスター ③活動シートなどをコピー ④準備物 |      | お茶、コップ、 |

|                |                                                                                                                                                     |                                                                                    |                                                                                                                  |
|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 40分前           | <p>教室準備</p>                                                       | <p>教室準備終了後、<br/>X⇒サブへ、活動説明</p>                                                     | <p>名札、ホワイトボード、サインペン、筆記具、紙、テープ、マグネット、はさみ、付箋、受付シート、筆記具、遊び名シート(4枚)、遊び道具(トランプ、あやとりひも、おはじき、ゴム跳びひも、けん玉、ルービックキューブ等)</p> |
| 30分前           | <p>受け付け開始</p> <p>① 受付シート記入 (初参加者は、名札作成)</p> <p>*非母語話者には、会話をしながら日本語力を確認する。</p> <p>日本語初級前半と後半の人はグループ分けのために、控えておく。</p> <p>*早く着いた人は、遊びコーナーで、遊んでも OK</p> | <p>受付：サブQ・S<br/>⇒受け付けの際、日本語力をさりげなく確認。</p> <p>日本語初級者が固まらないようグループ分け (4人×5、6グループ)</p> | <p>名札、筆記具、受付シート、付箋 (グループ分け用)</p>                                                                                 |
| 00:00<br>[20分] | <p>あいさつ</p> <p>アイスブレイキング：子どものときの遊び体験</p> <p>子どもの時にした遊び (ゴム跳び、あやとり、トランプ、手遊び、けん玉、ルービックキューブなど) のコーナーを4つ作る。</p> <p>参加者は、好きなコーナーで遊んでみる。(移動自由)</p>        | <p>主担当 X<br/>サブ P・Q・R</p>                                                          | <p>みんなで、同じ画面を見ると、一体感も高まります。貸出機器がある施設もあります。</p>                                                                   |
| 00:20<br>[10分] | <p>全体活動：話題提供・・・X (スライド使用)</p> <p>「今日は小学生の時の話をします。小学生って、何歳ですか？」</p> <p>「私は、小学生のころ、ゴム跳びをして遊びました。他に、木に登ったり、ザ</p>                                       | <p>主担当 X</p>                                                                       | <p>PC、プロジェクター、スライドのデータ</p>                                                                                       |

|                |                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                 |                                                                                                                  |
|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                | <p>リガニつりをしたりして遊んでいました。とても元気な子どもでしたが、落とし穴を作るいたずらもする、少し悪い子でした。学校では、給食が大好きで、よくおかわりしました。でも、学校の「集団登校」が嫌いでした。(…集団登校の説明…)他にも、集団でやることがたくさんありましたが、なぜやるのか、意味が分かりませんでした。(例：運動会行進)」</p> <p>「今日は、小学生のときのこと、好き／嫌いだったことをグループで話します。最後に、どちらか1つをワークシートに書いて、みんなに見せて、話します。」</p> <p>⇒グループを発表し、グループごとに分かれて座る</p> |                                                                 |                                                                                                                  |
| 00:30<br>[40分] | <p>グループ活動</p> <p>①自己紹介&amp;私が子どものとき (活動シートを使いながら話す)</p> <p>②小学生のとき、好きなこと／嫌いなことを話す</p> <p>③ワークシート記入：小学生のころ、好き／嫌いなことのどちらか1つ書く。</p>                                                                                                                                                           | <p>サブP・Q・R・S：グループ活動へ</p> <p>主担当X：お茶の準備<br/>お茶&amp;コップ (お菓子)</p> | <p>・活動シート</p> <p>・『つながる にほんご』p68-69×14</p> <p>・ワークシート×30</p> <p>ホワイトボード ×7</p> <p>ボード用ペン ×14</p> <p>マーカー ×30</p> |
| 01:10<br>[20分] | <p>全体活動：全体シェア・・・主担当X</p> <p>全員、ワークシートを掲げて見せ合い、順々に話を聞いていく。</p>                                                                                                                                                                                                                              | 主担当X                                                            |                                                                                                                  |
| 01:30          | 活動終了 ⇒お茶会                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 希望者                                                             |                                                                                                                  |
| 02:00          | 後片付け                                                                                                                                                                                                                                                                                       | いる人全員                                                           |                                                                                                                  |
| 02:30          | ボランティアふりかえり ⇒ 03:00 終了                                                                                                                                                                                                                                                                     | 主担当、サブ                                                          |                                                                                                                  |



冒頭の遊び体験では、けん玉が得意な日本人男性参加者が大活躍するはずでしたが、けん玉が得意な子どもがいて、お株を奪われてしまいました。でも、韓国の人韓国式のおはじき遊びを教えてくれたり、タイの人がタイ式トランプを教えてくれたりして盛り上がりました。子どものころの話では、学校の行事や校則の違いを話すグループが多かったです。

4-1話 こどものとき



こども



おとな



- こどものとき : あそびましたか? (いまは?)

|       |      |           |      |      |           |
|-------|------|-----------|------|------|-----------|
|       |      |           |      |      |           |
| かくれんぼ | サッカー | かわで あそびます | ゴムとび | トランプ | ほか<br>他に? |

- こどものとき : どんな こども でしたか? (いまは?)



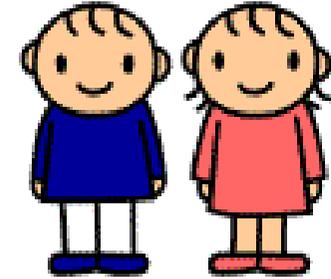
|     |      |      |       |          |           |
|-----|------|------|-------|----------|-----------|
|     |      |      |       |          |           |
| げんき | なきむし | いたずら | おとなしい | からだが よわい | ほか<br>他に? |

- こどものとき : すき でしたか? きらい でしたか?  
(いまは?)



|     |           |           |      |        |           |
|-----|-----------|-----------|------|--------|-----------|
|     |           |           |      |        |           |
| やさい | そとで あそびます | いえで あそびます | がっこう | きゅうしょく | ほか<br>他に? |

しょうがくせい  
子ども（小学生）のとき

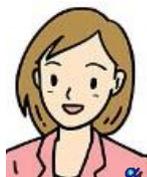


が

すき・きれい でした。

(8)「大変！電車が動かない」読み書きを取り入れて〈実践例〉

『つながる にほんご』本冊 p32-34



この教室は、昼と夜のクラスがあります。全5回の教室活動を年3回開催する教室で、生活の中で必要な読み書きに特化した活動をしています。進行役ボランティアの他に、数人のボランティアが参加し、学習者と一緒に話したり考えたりするそうです。

\*\*\*\*\*

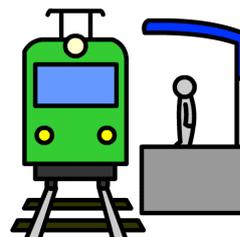
「電車が事故等で動かない時の案内・お知らせを読む」

学習者 : 昼講座：5名（台湾、パキスタン、ベトナム、ペルー）  
夜講座：7名（フィリピン、ペルー、中国）

目標 : 電車が動かない時、駅の案内を理解し、対処方法を考えることができる  
振替輸送や遅延証明書について理解する

読むもの : 活動シート「電車やバスが動かなくなったことがありますか」  
\*教材『つながる にほんご』p32-34をアレンジして使用

その他資料 : 語彙カード、駅の表示・案内の写真、タブレットPC（事故時の駅アナウンス動画表示）、スピーカー、遅延証明書(鉄道会社HPから)



<活動案>

| 時間           | 内容            | 流れ（問いかけ）                                                                                                                    | 語彙・文型                                                       |
|--------------|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| 0:00<br>0:10 | 自己紹介<br>話題の提示 | 今日は、電車で来ましたか？<br>電車・バスによく乗りますか？<br>お国との違いは？ 遅れることや止まることがありますか？<br>日本で、乗っていた電車が止まったことがありますか？ その時、どうしましたか？<br>(学習者・日本人の経験を聞く) |                                                             |
| 0:40         |               | ①駅のお知らせ（案内板・電光掲示板）を読む<br>*特有の語彙の確認<br>*丁寧な言い回しに注意<br><br>②案内板がない・読めない・理解できないとき、どう                                           | ただいま、しばらく、<br>当分の間、強風、台風、大雨、地震、雪、<br>人身事故、見合わせ<br>る、ご迷惑、運休、 |

|              |                 |                                                                    |                                                                                                      |
|--------------|-----------------|--------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1:40         | 実際の駅アナウンスを聞いてみる | するか。<br>＜駅員への聞き方練習＞<br><br>③振替輸送・遅延証明について知る<br><br>動画              | 取りやめ、遅れが出る、運転再開、復旧、ダイヤ、乱れる<br>～のため、～に伴い<br>～の影響で<br>お～いたします<br>させていただきます<br>おります<br>振替輸送、振替乗車票、遅延証明書 |
| 1:55<br>2:00 | まとめ<br>質問<br>終了 | 〔おまけの宿題〕<br>漢字「運」のプリント（読み方と書き順）<br>運転、運動、運休、運行、運航<br>運命、運勢、運がいい/悪い |                                                                                                      |

<動画アナウンス・スクリプト>



1. [事故時の車内アナウンス動画]

「お客様に重ねて、ご案内いたします。先ほど、〇〇の駅におきまして、人身事故が発生いたしました。その影響を受けまして、△△線全線で、運転を見合わせます。お客様には、お急ぎのところ、大変ご迷惑をおかけいたしましたことを、お詫びいたします。」

2. [改札口前で駅員がスピーカーを持って叫んでいる動画]

「お客様にご案内いたします。〇×駅で人身事故が発生したため、×××線は運転を見合わせております。「□□□」（交通系ICカード）でご入場のお客様は、タッチして出られるようになっています。先ほど14時、〇×駅で、人身事故が発生いたしました。いつ、復旧するかわかりません。お客様には大変申し訳ございませんが、今、動いている△×線、バスをご利用ください。」

<学習記録>

①学習者の属性：比較的滞日年数が長く、半数以上が日本での就労の経験がある。

国籍：フィリピン、ベトナム、ペルー、中国、台湾、パキスタン

電車は、「時々/よく利用している」、「ほとんど電車に乗らない（車を利用）」という人も2人（学習者と日本人1人ずつ）いたが、不測の事態への対応のため、その用語を理解しようね、と動機づけ。

②導入：電車が止まった時の体験談を聞き合う。学習者の半分くらい、事故で電車が止まった経験あり。原因は「事故」等、あまりはっきりわからなかったようす。日本人ボランティアに体験談（3.11 震災の時のことや、駅近くで止まってしまい線路を歩いて移動したことなど）を紹介してもらう。

線路を歩く人たちの写真



③電車が止まる原因を考えてみる。

→台風、強風、雪、地震、大雨などがすぐ出る。

人身事故と交通事故との違い、人身事故の定義（ホームからの転落、踏切事故、自殺等）を確認。

多発する踏切事故を取り上げた新聞の記事「線路に人！非常ボタンを押して！」を紹介。

タブレット PC を活用！その場のやり取りから出てきたことをすぐ調べて見せられるので、とても便利!



④資料を読む。

漢字の意味に注意させながら読み進める。

（漢字を正確に書きたい、という学習者が多かったので、丁寧に進行）

「見合わせる」は、誰も知らない。意味を確認。

「しばらく」、「当分の間」、「相当かかる」の時間の幅を、日本人の感覚を聞きながら確認。

\* 『つながる にほんご』教材をアレンジ

- ・状況に応じて、時間の幅があるので、p33 の「しばらく (30 分～) 動きません」の (30 分～) は削除。
- ・最後にやる聞き取りのために、「いつ復旧するかわかりません」と「ダイヤが乱れております」のフレーズを活動シートに追加。

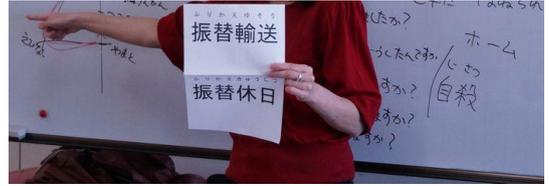
教材を、活動に合わせてアレンジしていて Good!  
どんどん、アレンジして使いましょう。



⑤分からない時に、駅員や近くの人にどう聞くか、いくつかパターンを確認

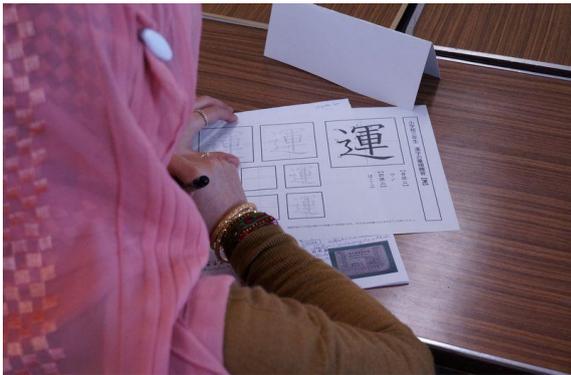
⑥振替輸送：実際、振替乗車票をもらった経験者はいなかった。システムは理解する。日本人に体験談を話してもらう。交通系 IC カードを利用しているときは、適用が複雑になるので、「駅員さんに聞きましょう！」

⑦遅延証明書：就労経験者は、実際に使っている。  
 (鉄道会社のHPから見せる)



⑧動画サイトを利用して、事故時の車内アナウンスと、改札口前の駅員の説明の聞き取り。  
 特に、改札口前の騒がしい場面では、日本人でも何があったか、どうすればいいかを聞きとることが難しいことを確認。でも、その前に、語彙をしっかりと学んでいたのも、「人身事故で運転見合わせ」は、全員聞き取れた！そこで、振替輸送の案内があることもわかった。達成感あり！

改札口前で駅員がスピーカーを持って叫んでいる映像。  
 騒然とした雰囲気の中で、乗客がウロウロしている様子がわかる。



\*今回は、漢字学習に積極的な学習者が多かったのも、おまけで「運」の漢字の練習(資料に「運転」と「運休」が出てくるので)。しんにょうの書き方が意外に難しいようだった。

\*\*\*\*\*



機械的な作業に終わりがちな読み学習ですが、タブレットPCを使った工夫で、提示される語彙や文字がどんな場面で必要なのか、納得して学べます。生活に役立つ文字だとすぐにわかりますね。活動時間内に達成感を引き出したことにも拍手！です。

活動シート

◎ 電車が動かなくなったことがありますか。

駅の お知らせ これは、なんの お知らせですか。

①

ただいま  
強風のため  
運転を見合わせて  
います。  
ご迷惑をおかけ  
いたします。

① ただいま  
きょうふう  
強風のため  
うんてん みあ  
運転を 見合わせて  
います。  
めいわく  
ご迷惑をおかけ  
いたします。

②

お知らせ  
台風接近に伴い、  
本日は始発列車  
より、当分の間  
運転を取りやめ  
させていただきます。

③



② 普通 遅れ 5分 千葉 15両

～間での 人身 事故の 影響で、

② お知らせ

たいふう せっきん ともな  
台風 接近 に 伴い  
ほんじつ しはつ れっしゃ  
本日は 始発 列車  
より とうぶん あいだ  
当分の間  
うんてん と  
運転を 取りやめ  
させて いただきます。

「しばらく 運転を見合わせます」 「運転再開まで 相当 かかります」

「いつ 復旧するか わかりません」 「運休しています」

「遅れが 出ています」 「ダイヤが 乱れております」

◎ 電車に乗っていて動かなくなったとき、どうしますか？

(1) まわりの人のようすを見ましょう。降りる人がいますか？

(2) なぜ動かないか聞きましょう。

台風、大雨、強風、雪、地震などのとき ⇒ 安全になるまで動きません。

人身事故、車両故障、信号故障などのとき ⇒ しばらく動きません。

\*わからないとき、駅員さんやまわりの人に聞きましょう。

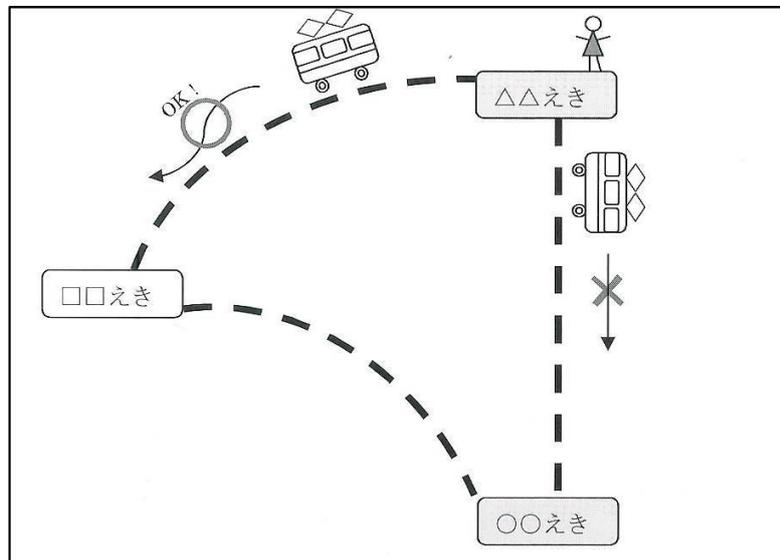
◎ 朝、仕事に行くため駅へ行きました。いつも乗る電車が止まっていた。

1時間動かないとわかりました。どうしますか？

①: 待ちます

②: 他の行き方でいきます。→ 他の行き方を駅員さんやまわりの人に聞きましょう。

ふりかえ 輸送  
【振替 輸送】



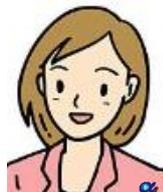
**振替乗車票**  
着駅 駅  
当日限り有効、途中下車できません。  
着駅でお渡しください。自動改札機は  
ご利用になれません。  
あかのみあ駅長

↑  
ふりかえしょうしゃひょう  
振替乗車票

**遅延証明書 0047**  
本日、当駅到着の電車が分遅延  
したことを証明いたします。  
大変ご迷惑をおかけいたしました。  
平成 年 月 日  
あかのみあ駅長

← ちえん しょうめいしょ  
遅延 証明書

(9)「地震ワークショップ」複数の団体が連携して〈実践例〉『つながる にほんご』本冊 p79



国際交流協会、役所、消防署、日本語教室など複数団体との連携、協力の基に実施したやさしい日本語による“地震”ワークショップの実践例です。事前に連携団体との綿密な打ち合わせを何度も行なったそうです。このワークショップは、普段あまり外国人と関わらない立場の方々が外国人に対してわかりやすい情報伝達の方法を学ぶいい機会になったそうです。

\*\*\*\*\*

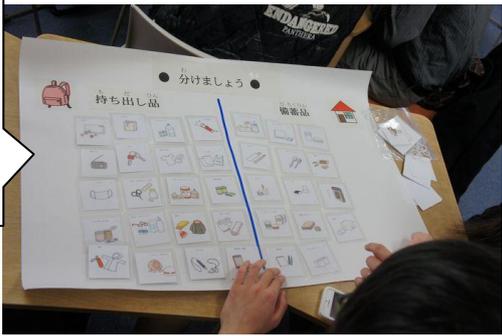
「やさしい日本語で“地震”ワークショップ」

目的 地域に暮らす外国人住民が災害弱者とならないよう、地震への災害対応力を高めるため  
 場所 スペースM（地域の日本語教室、国際交流拠点）  
 対象 日本で生活している外国人、日本語教室ボランティア等に関わる日本人など 30 人

| 時間            | 活動内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 備考                                                                |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| 30分前          | ◆事前準備<br>集合：設備・準備品確認、準備<br>最終確認（+会場準備）：A日本語教室のボランティアさん、消防署さん<br>受付開始：名簿チェック、名札記入、席はグループ別に                                                                                                                                                                                                                                                             | 参加者名簿<br>名札×40<br>ペン×8<br>付箋（3色）                                  |
| 00:00<br>(15) | ◆スタート<br>0. あいさつ&アイスブレイキング<br>→住んでいる場所や滞日期間などの質問に対し、挙手で参加してもらう<br><br>1. 地震を知る：3.11 震災時の話や映像から、地震体験を共有<br><br>(1)「最近、地震がありましたか。<br>11月に地震がありましたが、どこで何をしていましたか？」<br>「3年前に大きな地震がありましたが、日本にいましたか？」<br>→地震の映像を見る<br>視聴①映像「阪神淡路大震災」0:00-1:05<br>視聴②映像「Part2 地震が起こったら」（日本語版）<br>0:00-2:24（仙台国際交流協会）<br><br>→東日本大震災の体験者に震災体験談を話してもらう<br>（外国人 or 日本人：1人1分×2人） | プロジェクター<br>PC<br>ネット接続環境<br>スライド<br>*4人グループ<br>（学習者2<br>+ボランティア2） |
| 00:15<br>(35) | 2. 起震時の行動<br><br>(1) 起震時の行動順を考える：リビング編（グループ活動）                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 活動シート（『つながる にほんご』p79）                                             |



|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                       | <p>→活動シートを基に、グループで行動手順を話し合い、発表シート①に順番を貼る →全体シェア</p> <p>→正解発表②映像「Part2 地震が起こったら」(日本語版) 2:25-4:16 (仙台国際交流協会)</p> <p>*教材『つながる にほんご』 p79 を使用</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p>(2) 起震時の行動順を考える：寝室・街中編 (全体活動)</p> <p style="text-align: right; color: purple;">(→時間がなければ割愛)</p> <p>→寝室や街中の写真等を見ながら、行動手順や防災対策を考える</p> <p>②映像「Part2 地震が起こったら」(日本語版) 2:25- 5:27 (仙台国際交流協会)</p> <p>(3) 地震対応訓練：今ここで地震が起きた時の対処体験 (全体活動)</p> <p>シェイクアウト訓練：今ここで地震が起きたときの訓練「Drop, Cover, Hold on」</p> <p style="text-align: right; color: purple;">(→時間がなければ割愛)</p> <p>*参照「The Great Japan Shake Out」</p> <p>→広域避難場所 (A 小学校) に、エレベーター、エスカレーターを使わずに避難することを、全体で確認する。</p> <p>(河川危険がなければ B 小学校も可)</p> <p>*補足情報：避難場所 (避難所) マップ「地区地域防災拠点 (震災時避難場所)」</p> | <p>活動カード①<br/>(『つながる にほんご』 p79 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">あ</span>～<span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">か</span>イラストをカード化) ×7</p> <p>発表シート① ×7</p> <p>ゼロハンプ ×5</p> <p>ペン ×8</p> |
| <p>00:50<br/>(30)</p> | <p>3. 減災のための準備</p> <p>(1) 非常時持ち出し品／備蓄品の選択ゲーム (グループ活動)</p> <p>→非常時持ち出し品／備蓄品について知る</p> <p>視聴③映像「Part1 地震に備えよう」(日本語版) 0:42-3:56 (仙台国際交流協会)</p> <p>→避難所等にあるものも考慮し、「非常時持ち出し品／備蓄品」を分けて考え、発表シート②に絵カードを貼っていく (他に必要なものがあれば、白紙に追加記入)</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | <p>活動カード②<br/>(『つながる にほんご』 p82 持ち物イラストをカード化) ×10</p>                                                                                                                                                                          |

|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                |
|-----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| <p>発表シート②</p>         | <p>→全体シェア</p>   <p>(2) その他、減災準備紹介：防災グッズ、災害伝言ダイヤル、避難所確認<br/>視聴③映像「Part1 地震に備えよう」（日本語版）3:57-5:30（仙台国際交流協会）</p> <p>(3) 多言語版避難カード（グループ活動） <b>（→時間がなければ配布のみ）</b><br/>→グループごとに、避難カードを記入してみる（不明の部分は自宅で記入）</p> | <p>発表シート②<br/>×10</p> <p>ゼロハンテープ×5<br/>ペン×8</p> <p>災害カード×40<br/>大使館電話番号リスト</p> |
| <p>01:20<br/>(20)</p> | <p>4. 消防署によるワークショップ「私にもできる搬送方法」<br/>→消防署員によるやさしい日本語でのデモンストレーション</p> <p>→希望者がやってみる</p>                                                                                                                                                                                                 | <p>毛布</p>                                                                      |
| <p>01:40<br/>(5)</p>  | <p>5. まとめ<br/>◆終了 01:45 →アンケートを記入してもらい、お土産（非常食セット、笛）を配布</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | <p>お土産×30<br/>アンケート×30</p>                                                     |

\*グループ分け：日本語初級前半レベルの人は、サポートできるボランティアや母語が同じ中級者と一緒にグループにし、学習者とボランティア混合の4人グループにする。



参加者には、おおむね好評でした。日本人ボランティアからは「消防署の人が来てやってくれたのが良かった。他にもAEDの使い方など、いろんな企画をどんどんやってほしい」との声も出ました。

学習者にとっても、いつものボランティアと一緒に学べたのが安心で良かったようです。

### 3. 活動案や教材類の共有



これまでに様々な活動例を見てきましたが、活動では、活動案の他にも、活動シートやワークシート、カード類など、いろいろなものを使います。

日本語教室で活動をしていると、その時々で作ったこれらのこまごまとしたものが増えていきますが、これらは、日本語ボランティアの財産です。

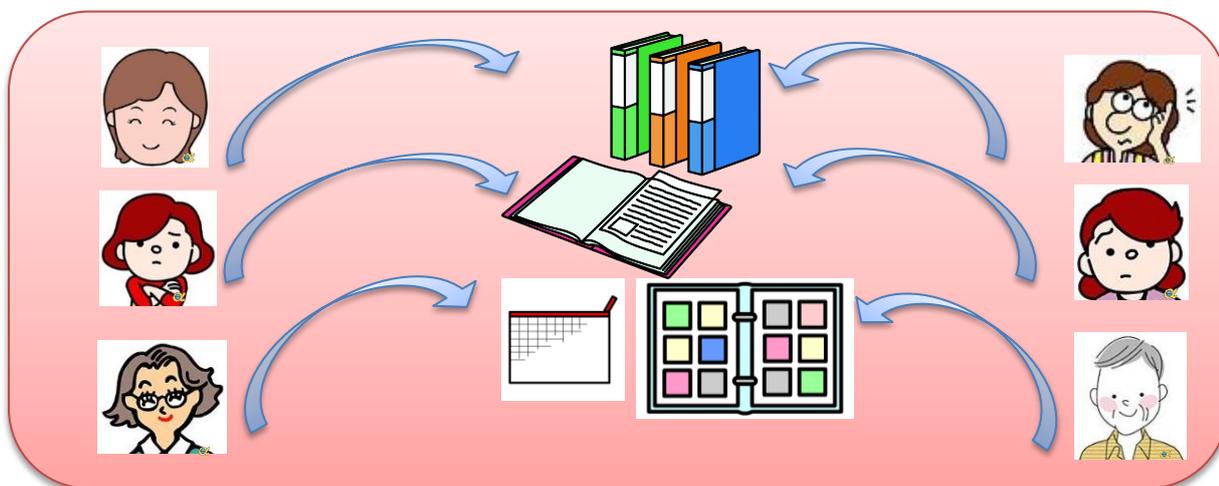
でも、増え続けていくこれら財産を、活動後、どうしていますか。

個人で、自宅にファイルしているボランティアさんも、きっと多いでしょう。しかし、毎回新しい活動案や教材類を作る労力は計りしれません。そして実は、同じ教室のボランティア仲間も同じような教材を別々に作っていたりするのです。「かなカード」や「絵カード」などは教室全体で共有していても、活動案や教材類は共有している教室が少ないようです。しかし、それなら教材類も教室の皆さんで共有してはいかがでしょう。

他の人が考えた活動案や教材類は、活動のヒントが満載です。そのまま使わずとも、自分流にアレンジして使い合うと、お互いの刺激にもなり、労力も半減します。

教室の保管場所の問題もあるでしょうが、ファイルなどに入れて、教室全体でいつでも共有できるようにしておくと、教室の財産が積み上げられ、ボランティアも楽になります。また、そうすることで教室全体のチームワークがさらにアップするでしょう。

「楽に、楽しく、無理せずに」が、ボランティア活動継続のコツです。





## おわりに



この『別冊 活動ガイド』もまた、本冊の『つながる にほんご ～かながわで ともに くらす～』と同様、多くの方のご協力やご助言によって出来上がりました。まずは心より御礼申し上げます。作成しながら、地域を知ることの面白さ、深さ、楽しさを感じる事が多くありました。さまざまな地域でご活動の皆さまと、その気持ちを共有できたら大変うれしく存じます。

次の皆さまからご協力・ご助言をいただきました。記して感謝申し上げます。

横浜市栄区区政推進課  
神奈川県立地球市民かながわプラザ  
公益財団法人横浜市国際交流協会

認定 NPO 法人地球学校  
NPO 法人国際交流ハーティ港南台  
あい・にほんごクラブ  
つるま読み書きの部屋  
日本語ひろば  
にほんご わせだの森  
ポットラック・インターナショナル  
マルガリータ教室  
山手日本語教室「絆」  
ユッカの会

井上ジョニー春菜（イラストレーター）  
山田美夏（イラストレーター 表紙）  
村上まさみ（イラスト協力）

深山（そば）  
八百準（青果）  
リフォームむつみ会

神奈川県立国際言語文化アカデミア 日本語教育教材開発事業ワーキング・グループ(2013)

志田早苗・池田宏・加藤マリアナ・木野美穂・庄野杏子・竹谷祥子・萩原久美子・

水本みゆき

(敬称略)

この他にも折々にいろいろな方のお力添えをいただきました。すべてのお名前を上げることができませんが、心より御礼申し上げます。

神奈川県立国際言語文化アカデミア 坂内泰子

小島佳子

- ◆『つながる にほんご ～かながわで とともに くらす～』本冊と『つながる にほんご ～かながわで とともに くらす～ 別冊 活動ガイド』は、以下の HP からダウンロード出来ますので、ご自由にお使い下さい。

国際言語文化アカデミア HP <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f440039/>

\*イラストのフリー素材は次のサイトのお世話になりました。

イラストポップ (イラストレーターHitoshi)

子供と動物のイラスト屋さん (イラストレーターわたなべふみ)

ドロップス (ドロップレット・プロジェクト)

白地図、世界地図、日本地図が無料 (三角形)

CLIPART FACTORY (リコージャパン株式会社)

<http://illpop.com/>

<http://www.fumira.jp/index.ht>

<http://droplet.ddo.jp/>

<http://www.freemap.jp/>

<http://www.printout.jp/clipart/>

つながる にほんご  
—かながわで ともに くらす—

## 別冊 活動ガイド

2014 年 3 月発行

発 行 神奈川県立国際言語文化アカデミア  
〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1  
TEL : 045-896-1091  
HP : <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7807/>

印 刷 文明堂印刷株式会社 横浜営業所  
〒232-0017 横浜市南区宿町2-49-2  
浜文第 2 ビル 1 F  
TEL 045-731-1441